

提案書類

鷹の台を元気にする会

平成25年11月15日

四街道市長 様

名称 鷹の台を元気にする会

所在地

代表者 代表 山城 淳子

印

みんなで地域づくり事業提案書

四街道市みんなで地域づくり事業提案制度実施要綱第7条の規定により、次のとおり提案します。

		新規 <input checked="" type="radio"/> 継続		
事業名	地域がつながるコミュニティスペースをつくろう			
事業概要	① 子育て中の母親の交流と情報交換と学びの場の運営（昼間） ② 鷹の台塾開講（夏休み） ③ 鷹の台こども子育て会議開催			
事業分野	<input type="checkbox"/>	保健・医療・福祉	<input type="checkbox"/>	社会教育
	<input type="checkbox"/>	まちづくり	<input type="checkbox"/>	観光
	<input type="checkbox"/>	農村等振興	<input type="checkbox"/>	文化・芸術・スポーツ
	<input type="checkbox"/>	環境	<input type="checkbox"/>	災害救援
	<input type="checkbox"/>	地域安全	<input type="checkbox"/>	人権擁護・平和
	<input type="checkbox"/>	国際協力	<input type="checkbox"/>	男女共同参画
	<input checked="" type="checkbox"/>	子どもの健全育成	<input type="checkbox"/>	情報化社会
	<input type="checkbox"/>	科学技術	<input type="checkbox"/>	経済活動
	<input type="checkbox"/>	職業能力開発・雇用機会拡充	<input type="checkbox"/>	消費者保護
	<input type="checkbox"/>	市民活動支援	<input type="checkbox"/>	その他（ ）
事業部門	<input type="checkbox"/>	拠点づくり部門	<input type="radio"/>	地域づくり部門
	<input type="checkbox"/>	アンダー19部門		
事業形態	<input type="checkbox"/>	コラボ型	<input type="radio"/>	サポート型
市の担当課	こども保育課 ・ 健康増進課			
添付書類	(1) みんなで地域づくり事業企画書（様式第2号） (2) みんなで地域づくり事業収支計画書（様式第3号） (3) 提案団体概要書（様式第4号） (4) 団体の規約、会則等の写し (5) 団体の構成員の名簿 (6) 団体の活動内容がわかるもの（パンフレット等） (7) その他（ ）			

備考

- 「事業概要」は、簡潔に記載してください。
- 「事業分野」は、該当する分野に○印をつけるものとし、該当する分野が複数ある場合には、主なものに◎を付け、その他のものに○印を付けてください。
- 「事業部門」及び「事業形態」は、いずれかの部門及び形態に○印を付けてください。

みんなで地域づくり事業企画書

団体名	鷹の台を元気にする会	
事業名	地域がつながるコミュニティスペースをつくろう	
目的・必要性	<p>・鷹の台地区は四街道市街の中心地区から離れているため、児童館や公民館などの公共施設がない。</p> <p>・地域が元気になるためには住民同士のつながりが不可欠。</p> <p>・コミュニティスペースを設置運営し、地域のママ達が繋がることで、地域のシニアや子ども達ともつながっていく。</p> <p>・企画、運営に関わりながらママ達の社会復帰の訓練の場にする</p> <p>昨年度活動をスタートして、地域の母親のコミュニティは少しずつではあるが、形になってきている。地域をつなぐ場としての役割と、母親たちの活躍できる場としての役割を果たしつつある。</p> <p>今年度はまず地域で活動をスタートし、周知をはかり継続してきたので、来年度は定着させ、出来つつあるコミュニティを育てるために活動を続けていきたい。</p>	
内容	<p>【対象】鷹の台地区の住民</p> <p>【活動】</p> <p>① 子育て中の母親の交流と情報交換と学びの場の運営（昼間）</p> <p>② 夏休みの補習教室の補助</p> <p>③ 鷹の台こども子育て会議開催</p> <p>【体制】子育て中の母親を中心とした企画運営 また、自治会役員、保護者、シニアなど多様な主体が活動をサポート</p> <p>【活動場所】鷹の台自治会館</p>	
スケジュール	時期	具体的な取組
	4月～3月	運営会議〈月1回〉
	4月～3月	週1日ペースで開所（10時～13時） 子育て講座又は子ども向け講座 月1回開催
	7月～8月	吉岡小学校が主催する夏休みの補習教室への協力
	11月	鷹の台子ども子育て会議の開催
役割分担の想定	<p>（団体の役割）</p> <p>・コミュニティスペースの運営</p> <p>・地域の人材発掘、人材育成</p> <p>（市の役割）</p> <p>こども保育課 ・子育て情報の提供 〈随時〉・広報 健康増進課 ・保健師、歯科衛生士等の派遣による講座と相談〈年2回程度〉</p>	
他団体との連携	<p>■吉岡小学校・・・子ども達への広報・学校施設の開放</p> <p>■子育て支援サークル ベネヴォール（吉岡小学校 学校支援ボランティア）・・・託児の応援</p> <p>■民生委員、児童委員・・・見守り協力</p>	

	<p>■みんなで地域づくりセンター・・・広報・パソコン操作や広報講座等団体サポート</p> <p>■社会福祉協議会・・・社協主催の「ちびっこハウス」（第2第4金曜日鷹の台自治会館で開催）と情報交換による利用者の紹介と広報</p>
<p>期待される成果</p>	<p>1. 子育て世代によるコミュニティスペースの運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て中の母親同士の交流による子育ての孤立化の予防 ・プチ講座などを通じて、個々の持つ知識や技術をシェアしあう ・運営体験が母親の社会復帰に向けての学びと活動の場となる ・特技を持った母親が互いに教え合い、学び合うことを通し、地域での活躍できるきっかけをつくる <p><25年度利用者の声></p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段は同じ幼稚園の母親同士でしか付き合いがないので、それ以外の地域のママ同士で知り合えてよかった。 ・家から近い場所に集まれる場があって助かる。 ・ここにくるとやりたいことができるのが楽しい。 ・子どもも遊ばせながら、親同士いろんな話ができるのが良い。 <p>2. 鷹の台子ども子育て会議開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の多世代交流が盛んになる ・地域の問題や課題の情報共有 ・地域活動への参加のきっかけ作り <p>3. 吉岡小学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの補習教室サポートによる、地域内での顔の見える関係づくりをすすめる ・未就学児の母親たちが早い時期から吉岡小学校に馴染むことで、地域の結びつきを強める <p><25年度の様子></p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉岡小学校を卒業した大学生が、鷹の台塾という夏休みの補習授業を同じ地域に住む小学生に勉強を教えることで、地域がつながるきっかけになった。 ・0才から1、2歳の子どもを持つお母さん達が将来通う小学校を見学した。非常に好評で12組の母子が参加した。次回の開催を望む声も多いので、定期的に行う事も検討している。 <p>〈利用者数予測〉</p> <p>子育て中の母親 年間利用者 1回10人×週1回 ×12か月 =480人</p>

備考

- 1 「役割分担の想定」のうち（市の役割）は、事業形態がサポート型にあつては、役割がある場合に記載してください。
- 2 「期待される効果」は、数値等を記載してください。

おうち+ 開催の様子

開催回数	開催年月日	主な活動内容	スタッフ数	参加者			
				組数	おとな	子ども	参加合計数
1	2013.5.22(水)	おためし	2	15	15	16	31
2	2013.5.28(火)		2	8	8	8	16
3	2013.6.4(火)		2	6	6	6	12
4	2013.6.11(火)		3	4	4	4	8
5	2013.6.18(火)		3	4	4	4	8
6	2013.6.25(火)		2	7	7	7	14
7	2013.7.2(火)	幼児救命救急法	2	8	8	8	16
8	2013.7.9(火)	ホットプレートパーティ	4	8	8	9	17
9	2013.7.16(火)		3	3	3	3	6
10	2013.9.3(火)	保育士さんと遊ぼう	3	9	9	9	18
11	2013.9.10(火)		3	5	5	5	10
12	2013.9.17(火)		2	8	8	8	16
13	2013.9.24(火)	吉岡小学校探検	2	17	17	15	32
14	2013.10.1(火)		2	5	5	5	10
15	2013.10.8(火)		1	5	5	5	10
16	2013.10.15(火)		2	4	4	4	8
17	2013.10.22(火)	洋服交換会	2	5	5	5	10
18	2013.10.29(火)	ハロウィンパーティ	4	14	14	16	30
19	2013.11.5(火)	ベビーマッサージ	2	9	9	10	19
20	2013.11.12(火)		2	4	4	4	8
21	2013.11.19(火)		2	5	5	5	10
22	2013.11.26(火)	フラワーアレンジメント	3	17	17	21	38
23	2013.12.3(火)	クリスマス・リース作り	2	20	20	21	41
24	2013.12.10(火)		2	4	4	4	8
25	2013.12.11(水)	ピラティス	2	12	12	14	26
26	2013.12.17(火)	松ぼっくりツリー	2	13	13	14	27
27	2013.12.18(水)	ピラティス	1	9	9	8	17
							0
							0
							0
							0
							0
							0
							0
							0
							0
							0
							0
							0
							0
							0
							0
							0
							0
							0
							0
							0
							0
							0
							0
							0
							0
							0
計			62	228	228	238	466

主な活動内容空白の部分はすべて子育て中の親子の交流

提案書類

四街道こども記者クラブ

平成25年11月14日

四街道市長 様

名称 四街道こども記者クラブ

所在地

代表者 代表 佐藤裕紀 印

みんなで地域づくり事業提案書

四街道市みんなで地域づくり事業提案制度実施要綱第7条の規定により、次のとおり提案します。

新規・継続

事業名	こどもの視点で地域づくり～こどもたちと共につくるまちのメディア～		
事業概要	こども記者作成の地域にづくりにかかわる記事や新聞を発信する。また取材、展示会等を通じてより地域に密着した地域づくり活動を目指す。		
事業分野		保健・医療・福祉	<input type="radio"/> 社会教育
	<input checked="" type="radio"/>	まちづくり	観光
		農村等振興	文化・芸術・スポーツ
		環境	災害救援
		地域安全	人権擁護・平和
		国際協力	男女共同参画
		子どもの健全育成	情報化社会
		科学技術	経済活動
		職業能力開発・雇用機会拡充	消費者保護
		市民活動支援	その他()
	事業部門		拠点づくり部門
		アンダー19部門	
事業形態		コラボ型	<input type="radio"/> サポート型
市の担当課	政策推進課(市民活動推進室)、秘書広報課		
添付書類	(1) みんなで地域づくり事業企画書(様式第2号) (2) みんなで地域づくり事業収支計画書(様式第3号) (3) 提案団体概要書(様式第4号) (4) 団体の規約、会則等の写し (5) 団体の構成員の名簿 (6) 団体の活動内容がわかるもの(パンフレット等) (7) その他()		

備考

- 「事業概要」は、簡潔に記載してください。
- 「事業分野」は、該当する分野に○印をつけるものとし、該当する分野が複数ある場合には、主なものに◎を付け、その他のものに○印を付けてください。
- 「事業部門」及び「事業形態」は、いずれかの部門及び形態に○印を付けてください。

みんなで地域づくり事業企画書

<p>団体名</p>	<p>四街道子ども記者クラブ</p>	
<p>事業名</p>	<p>こどもの視点で地域づくり～子どもたちと共につくるまちのメディア～</p>	
<p>目的・必要性</p>	<p>地域づくりにおいて、「今の地域の様子を見つめなおす」ことは基本であると同時にとても重要なプロセスです。しかし、実際にはその主体を多くの場合大人が担い、大人の視点による地域づくりが進んでしまっています。子ども記者クラブでは、「子どもがつくるまちのメディア」として、こどもの視点を取り入れ、「子どもたちと共につくるまちのメディア」として、大人も子どもも一緒になって地域を見つめなおし、情報を発信していくことを目的としています。</p>	
<p>内容</p>	<p>【対象】 四街道市内の小中学生約 25 名</p> <p>【活動】</p> <p>①地域の施設やイベント取材、記事づくり（月 1 回程度） <取材依頼、取材希望等に応じて子ども記者による取材活動> ・スタッフ及び保護者の同行のもと、多方面への取材活動 ※夏休み等の長期休みには取材活動の充実を図る。</p> <p>②記事の発表・展示を行う子ども記者展の開催（年 1 回） <会場：市役所、文化センター等> ・子ども記者作成の記事等の展示 ・来場者への子どもによる案内、プレゼンテーション等 ・アンケート実施によるフィードバック</p> <p>③子ども記者クラブホームページ、facebook 等による情報発信（随時） <子ども記者作成記事の掲載、スタッフブログ等による情報発信></p> <p>④被災地である宮城県東松島市への子ども記者クラブの派遣・取材 ・子どもの視点を通じて被災地の復興状況や被災地支援、同世代の子どもたちの生活などを取材する。 ・取材記事の市政だより等への掲載 (秘書広報課との連携)</p> <p>【体制】 学生及び社会人ボランティアによる支援</p> <p>【活動場所】 四街道市文化センター会議室、みんなで地域づくりセンター、地域イベント会場等</p> <p>【資金調達】 子ども記者からの会費</p>	
<p>スケジュール</p>	<p>時期</p>	<p>具体的な取組</p>
	<p>平成 26 年 2 月</p>	<p>子ども記者、スタッフ募集（市政だより・HP・facebook 等）</p>
	<p>1 回/月</p>	<p>四街道市内および周辺地域の取材、記事の作成等</p>

様式第2号（第7条）

	夏休み	東松島市への派遣、取材
	平成27年2月	こども記者作成の記事の発表、展示（市役所、文化センター、市内施設等）
役割分担の想定	(団体の役割) ・こども記者クラブの運営 ・こども記者による地域情報の発信	
	(市の役割) (政策推進課) ・地域情報の提供 ・活動、打ち合わせ場所の提供 ・啓発支援（広報等） (秘書広報課) ・取材情報の提供 ・市政だよりへの記事掲載（不定期） ・東松島市派遣・取材のコーディネート	
他団体との連携	①みんなで地域づくりセンター・・・「子ども記者育成講座」をきっかけとした本活動のサポート（活動場所の提供、相談・コーディネート） ②市内小中学校・・・資料配布・掲示等 ③地域振興財団・・・発表会場の提供 ④各地域団体（サクラソウフェスタ実行委員会、どんぐりの森プレーパーク、共栄フリーマーケット等）・・・イベント取材等 ⑤ 地域情報ポータルサイト「よつぼ」・・・情報交換等 ⑥ 宮城県東松島市の住民・・・交流、連携	
期待される成果	・こどもの地域づくりへの参加機会が増え、そこでの取材活動を通して、こどもの地域づくりに対する意識や視点が変化する。 ・こどもらしい視点によって作られた地域づくりに関する記事から、こどもも大人も新しい意識で地域を見つめなおし、改めて地域づくりへの意識を持つきっかけが生まれる。 ・他の地域で行われている地域づくり活動の様子を知ることにより、相互に視野を広げ、新鮮な視点で地域づくりを考えることができる。 ・他の地域の様子を知ることにより、自分たちの住む地域の良い所、課題となるところがより明確になり、より具体的に地域の魅力や問題点を捉え、考えることができる。 ・特に被災地である東松島市の住民との交流、連携はこども記者による地域づくりに関してネットワーク構築の基盤となる。 ・学年や学校、年齢の枠を越えた活動を通し、こどもやスタッフ、相互の関わりあいや協力のなかで、こどもも大人も豊かな学びの中で地域づくりに参加することができる。 ・こどもが様々な場所へ行き、様々な立場の大人と関わりながら取材を行う中で、社会教育・キャリア教育としてもこどもに豊かな学びを与えることができる。	

備考

- 「役割分担の想定」のうち（市の役割）は、事業形態がサポート型にあつては、役割がある場合に記載してください。
- 「期待される効果」は、数値等を記載してください。

四街道 こども記者 クラブ通信

今号は私達が次のテーマでお届けします！

1. サクラソウフェスタ取材
2. 四街道こども記者って……
3. 連載 こども記者活動を記録「記者への道のり」



そうま記者



みくる記者



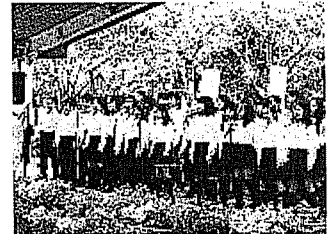
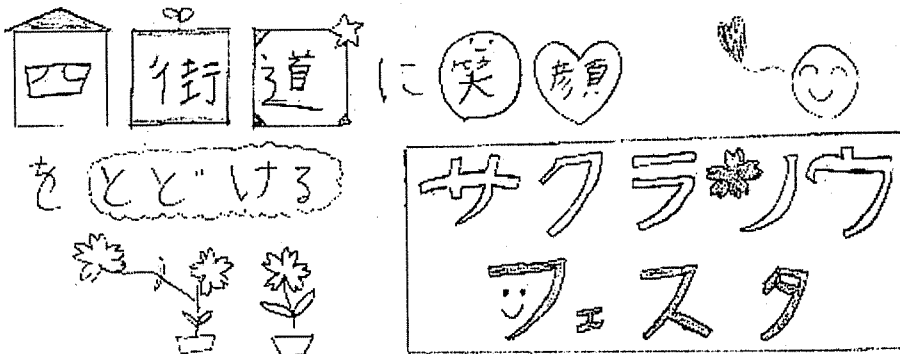
まな記者



れいみ記者

02

平成25年8月15日発行
四街道こども記者クラブ
www.kodomokisha.jp



4月21日土曜日に四街道中央公園で行われたサクラソウフェスタは四街道の花、さくらそうが飾られ明るくにぎわうお祭りです。今年のサクラソウフェスタは雨でしたが、晴れている日は屋たいが約50けんも出るそうです。多いときには二、三千人、雨の日でも五百人ほどの人が集まるそうです。このお祭りは毎年春に行われているのでみなさんも来年はぜひ来てみてください。



みくる記者

サクラソウフェスタって どんなお祭りなの？

サクラソウフェスタは主に実行委員会の方が準備やとりまとめを行っています。屋たいは飲食店が多く、アイスクリームやフランクフルトなどの屋たいがあります。また、「房総のむら」(昔の家や店がある大きな公園のような所)の方などが、まが玉(昔の人のアクセサリー)作り体験コーナーを開いて、人気を集めていました。



みくる記者

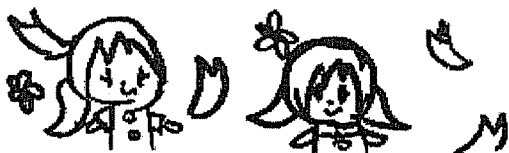


Mean'sの方に取材しました

現在下志津病院などでボランティア活動をしているMean'sさん。ボーカルとギターの二人組アコースティックユニット。8年間、路上ライブや様々な場所で活動して、地いきを活性化しています。これからも地いき活性化、四街道のみりよくとしてがんばってほしいです。

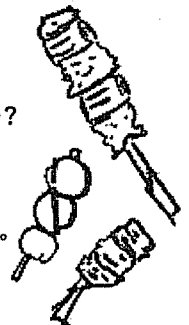


まな記者



こども記者がやきとり鳥いちさんにインタビュー！

- Q なぜ出店しているのですか？
A 四街道で働いていてみんなを元気にしたいという願いからです。
- Q ふだんはドコでお店を開いているのですか？
A ふだんは消防署の近くでやっています。
- Q 今回の工夫って、ありますか？
A 今回は寒いので、温かい物を出しています。
- Q オススメはありますか？
A 焼き鳥とどんぶり。



鳥いちさんでは、他にも、つくねともも肉の入った丼ぶりやフランクフルトなどを売っています。四街道を活性化するために、日々がんばっている鳥いちさん。皆さんもぜひ、行って下さい。



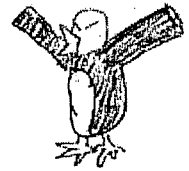
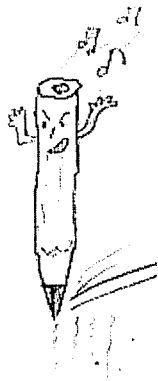
まな記者



四街道

子ども

記者クラブ



四街道子ども記者クラブは四街道の小4から中2までの23人が、大学生や大人のスタッフと力を合わせて地域の情報を発信する団体です。

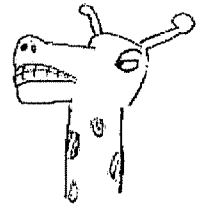


れいみ記者



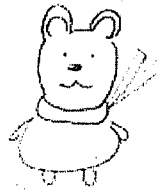
子ども記者クラブ去年1年間のあゆみ

去年の前期は四街道子ども記者クラブ通信を作りました。これは、市政だより四街道11月1日号におりこみで発行しました。そのとき自分は町のふしぎチームで、ルボン山の幽れいのうわさや、れきしを調べました。



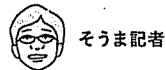
他のチームでは、市長にインタビューしたり、四街道のグルメをしらべていました。

後期では、一人一人の興味のあることをしらべて自分記事を作りました。3月には市役所と文化センターで展示会を行いました。他にも写真のとりかたやとるときのマナー、取材のテクニックなどをおしえてもらいました。

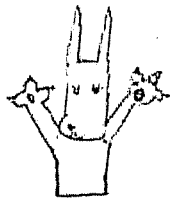


子ども記者クラブのこれから

これからも、地域のよさを見つけながらがんばっていきます！四街道子ども記者クラブは、様々な分野で活動していきますので、おうえんよろしく願います。



そうま記者



れいみ記者

子ども記者
クラブの記録

記者の道のり



記者の道のりキャラクター
記者になりたいトリ

5月11日(土)

今日は前回のサクラソウフェスタの記事をまとめるため、一人一人自分で記事を書きました。一方、第2号の子ども記者クラブ通信をつくるチームは、サクラソウフェスタについて書くチームと、四街道子ども記者クラブについて書くチームにわかれ、一つ一つの文を考えながら丁寧に仕上げていました。



れいみ記者

スタッフのつぶやき

手さぐりで進んできた子ども記者クラブも、2年目に突入。今年は子どもたちと一緒にまちを歩いたり、色々な人の話を聞いたりしながら、「四街道のよいところ」みつけています！子ども記者たちの鋭い視点や行動力に日々驚かされています。次号もお楽しみに！

四街道子ども記者クラブ

住所：284-0001 千葉県四街道市大日 396(文化センター1階)

電話：043-304-7065(四街道市みんなで地域づくりセンター 担当：中川)

ホームページ：<http://www.kodomokisha.jp/>

メール：info@kodomokisha.jp

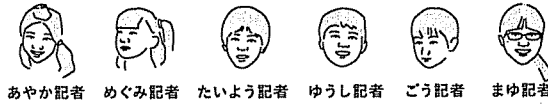
Facebook：<http://www.facebook.com/kodomokisha>

協力：四街道市政推進課、四街道市みんなで地域づくりセンター

四街道 こども記者 クラブ通信

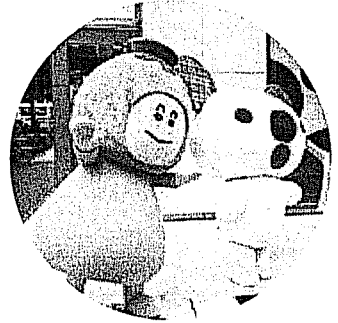
今号は私達が次のテーマでお届けします！

1. 千葉パルコ × ドラマチック四街道
2. こども記者、夏の色々体験レポート♪
3. 連載 こども記者活動を記録「記者への道のり」



03

平成25年11月15日発行
四街道こども記者クラブ
www.kodomokisha.jp

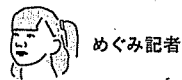


9月22日(日)、千葉パルコで開かれたイベントの取材をしてきました。ドラマチック四街道と千葉パルコがコラボしたイベントで、四街道のご当地キャラ「よつぼくん」も来ていました。



ヴィレッジヴァンガードを取材しました

千葉パルコのヴィレッジヴァンガードは、少し変わった物が売れるそうです。駅が近いから大学生がよく来るので、学生向けの物が多いそうです。お店によって仕入れる物が違うのでそれも1つの楽しみです！よつぼくんグッズも売っていますごくかわいいです。



ヴィレッジヴァンガードの店長さんに、今までで大変だったことを聞きました。広い店内で色々な商品を見つけることだそうです。商品がとても多いので、一つ一つ覚えるのは大変です。



パルコの警備員さん



パルコには、茶色い制服を着た警備員がいます。館内のすべてを監視し、地震や火災があった時にお客さんを安全な場所へ誘導します。他にも、お客さんの具合が悪くなったときに、救急車来るまでの一時対応として、お客さんの容体を確認します。昼の担当の時は、朝の10時くらいから夜の10時くらいまで働いています。夜から仕事を

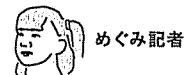
をする時もあります。館内は広いから、火災などが起こった時にすばやく誘導できるのがすごいと思いました。



いい街ちばフリーマーケット

フリーマーケットは、千葉のいいところ知ってもらうために、20年くらい前から開催していました。フリーマーケットを運営している榎浦さんに話を聞くと、「雨が晴れかわからないのが大変ですが、人が集まったり、みなさんの喜ぶ顔を見たりするのがうれしいです。」とっていました。9月は、お店が140店出ているそうです。色々な物が売っていて楽しかったです。

フリーマーケットは、多くの人の方で成り立っていることがわかりました。



ドラマチック四街道もフリマに出店！

こども記者夏の色々体験レポート

美食酒場 シェナー丁目のようす

8月28日(水)に、四街道駅前にある「美食酒場 シェナー丁目」でピザ焼き体験をさせていただきました。

美食酒場 シェナー丁目の様子



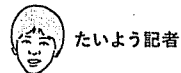
シェナー丁目の中はイタリアン風で、天井からブタの足のお肉がぶら下がっていました。まど側にはワインが置いてありました。メニューは大きな黒板にチョークで書いてあります。黒板にはどれがおススメかランキングが書いてあるのでわかりやすいです。

ピザ焼き体験!



生地の上に、ミートソースとチーズと、つみたてのバジルをのせました。ぼくは、明るいイメージになるように具をのせました。自分の思った通りに盛り付けができて楽しかったです。自分で作ったピザはとてもおいしかったです。シェナー丁目にはすごく

おいしいピザやサブワゲティーがあるので、ぜひみなさんも行ってみてください。



たいよう記者



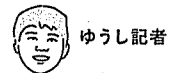
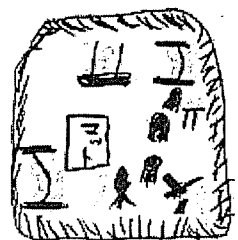
栗山こどりの森プレパークのことをちょびっと紹介!読んでよね!



こんなカンジ!栗山こどりの森プレパーク 7月25日(木)は栗っ子サマースクールで自治会の人たちとプレパークの人たちが協力して弓矢などの遊び道具を用意してくれました。ブランコや弓矢でたくさん遊びました。他の公園ではできないような遊びが特に楽しかったです。いっぱい遊んで遊びつかれたらハンモックでまったりするのもオススメ!とにかく子どもが行っても大人が行ってもだれでも楽しめます。楽しいのでみなさん行ってみてください。



ごう記者



ゆうし記者

四街道公民館で三泊三日の通学合宿

通学合宿に行った!

7月15日(祝・月)から17日(水)の間、四街道公民館に泊まりました。参加人数は16人で、3つの班に分けられました。

夕食作り



最初に、お買い物をイトーヨーカドーでした。ぼくの班は6人+スタッフ1人で、7人分の食材を4食分買うので、結構大変でした。15日の夕食のメニューはハンバーグです。玉ねぎのみじん切りが大変でした。片付けが終わったら、もらい湯ボランティアの人の家に行って、お風呂に入らせてもらいます。みんなロビーへ行って、もらい湯の人を待ちました。

みんなで協力!

朝ごはんはフレンチトーストを作りました。1枚目を焼いたとき、ふつうに焼いてみたらこげちゃって、2枚目のパンはみんなで考えて焼き加減を調節したらうまく焼けました。

通学合宿では、毎日お母さんたちがやっている仕事を体験しました。ぼくたちも大きくなったらそれを活かしてがんばっていきたいです。



10月12日(土)

今日は、10月26日(土)に行われる「ユニバーサル農業フェスタ」に向けて、記事をまとめました。今日が記事の提出日だったので、みんないつもよりも集中して、ていねいに記事をまとめることができました。



まゆ記者

スタッフのつぶやき

第2回こども記者展を終え、こども記者たちはまた一回り成長したようです。スタッフも負けてはいられませんね!次号もお楽しみに!

四街道こども記者クラブ

住所: 284-0001 千葉県四街道市大日 396(文化センター1階)
 電話: 043-304-7065(四街道市みんなで地域づくりセンター 担当: 中川)
 ホームページ: <http://www.kodomokisha.jp/>
 メール: info@kodomokisha.jp
 Facebook: <http://www.facebook.com/kodomokisha>
 協力: 四街道市政政策推進課、四街道市みんなで地域づくりセンター

提案書類

ともに築く未来の会

みずほで地域
のくまラボ

平成25年11月14日

四街道市長 佐渡 斉 様

名称 四街道ともに築く未来の会

所在地

代表者 代表 國生美南子

㊞

みんなで地域づくり事業提案書

四街道市みんなで地域づくり事業提案制度実施要綱第7条の規定により、次のとおり提案します。

		新規・継続	
事業名	わくわく市民活動フェスタ事業～子どもも市民～		
事業概要	①市内小学校(みそら小学校へ依頼予定)にて親子で楽しめる遊びや社会体験と市民活動の情報提供を行うフェスタの開催 ②地域課題に連動した市民活動の協働のありかた等を学び合う「市民活動フォーラム」の開催		
事業分野		保健・医療・福祉	<input type="radio"/> 社会教育
	<input type="radio"/>	まちづくり	観光
		農村等振興	文化・芸術・スポーツ
		環境	災害救援
		地域安全	人権擁護・平和
		国際協力	男女共同参画
	<input checked="" type="radio"/>	子どもの健全育成	情報化社会
		科学技術	経済活動
		職業能力開発・雇用機会拡充	消費者保護
	<input type="radio"/>	市民活動支援	その他()
事業部門		拠点づくり部門	<input type="radio"/> 地域づくり部門
		アンダー19部門	
事業形態		コラボ型	<input type="radio"/> サポート型
市の担当課	政策推進課、社会教育課		
添付書類	(1) みんなで地域づくり事業企画書(様式第2号) (2) みんなで地域づくり事業収支計画書(様式第3号) (3) 提案団体概要書(様式第4号) (4) 団体の規約、会則等の写し (5) 団体の構成員の名簿 (6) 団体の活動内容がわかるもの(パンフレット等) (7) その他()		

備考

- 「事業概要」は、簡潔に記載してください。
- 「事業分野」は、該当する分野に○印をつけるものとし、該当する分野が複数ある場合には、主なものに◎を付け、その他のものに○印を付けてください。
- 「事業部門」及び「事業形態」は、いずれかの部門及び形態に○印を付けてください。

みんなで地域づくり事業企画書

<p>団体名</p>	<p>四街道ともに築く未来の会</p>
<p>事業名</p>	<p>わくわく市民活動フェスタ事業～子どもも市民～</p>
<p>目的・必要性</p>	<p><事業目的> 「子育て日本一」を目指す四街道市にあって、「子どもも市民」「つなげようひろげようみんなのわ」のテーマのもと、未来を担う子ども達へ親子で楽しむ笑顔づくりを応援します。同時に子ども達の主体性や協調性等を育み、エコ体験、障害者体験などの社会体験や市民活動がどのようなものを学び合う社会教育を目的とします。そして普段異なる分野で異なる目的を持ち幅広い活動を展開している市民活動団体やPTA・自治会等地元組織が自分たちの活動の範囲を超え協働して「わくわく市民活動フェスタ」や「市民活動フォーラム」の開催を通し、自分たちの活動の範囲を超えた市民協働の意識を高め、まちづくりにつながる市民活動活発化の一端とします。</p> <p>【まちづくり】フェスタ会場は5中学校区の中の小学校を輪番で開催します。2015年はみそら小学校を予定しています。各小学校は地域的コミュニティーの中心として、それぞれの地域的背景、歴史や地域課題を有し、地域の精神的拠り所になっております。基本的なイベント目的・内容での取組と共に、開催小学校区の地域組織や人々と地域課題と解決方法について意見交換を行い主要な取組と致します。コミュニティーの希薄化が進む中、その取組を通じ、地域で密着活動する地域団体と参加者親子の親密度が上げれば次の展開へつながると考えます。</p> <p>【まちづくり】障害のある人について多くの人に関心を持ち、健常者と障害者が出会うなかで「障害者体験をする」など障害者と健常者がともに暮らせるまちづくりへ意識向上の面での一助となることを期待し、障害者団体組織「のぞみの会」等とも連携を図ります。</p> <p>【社会教育】当日は小学校（体育館、校庭、校舎）を会場に「つくってあそぶ」、「あそぶ」、「みる」、「きく」、「エコ体験する」、「生活技術の体験する」、「障害者体験をする」「復興支援を手伝う」、「たべる」などのブースを設けます。各ブースの団体は同時に自分たちの活動のPRも行い子ども達の市民活動の理解へつなげます。学校教育の補完として社会教育の一環とします。</p> <p>【子どもの健全育成】【社会教育】「子どもが主役本部席」を設けます。子どもリクルート、アナウンス、ブース手伝い、靴整理隊等の役割を子どもたちが担います。大人に交じってイベントを運用・活動することにより、充実感や自己有用感を獲得し、主体性、協調性、社会性などの向上につながる社会教育の一環とします。</p> <p>【子どもの健全育成】全体イベントとしては「学校児童による演奏」「地域連盟による演奏・演舞」などで子どもたちや一般市民が参加しての自分で表現する楽しさを味わうと同時に、知り合いが多い会場の参加者たちを盛り上げます。</p> <p>【子どもの健全育成】地域の宝である子ども会がないところが増えていきます。四街道市子ども会育成連合会等とも連携を図りながら、子ども会の育成に協力します。</p> <p>【市民活動支援】参加団体が自らの活動を紹介すると共に企画～準備～実施過程において市民協働の意識を広げるために多数の市民が参加するフェスタとします。市民活動を広く周知することにより市民活動に参加する市民が増え市民活動を活発化することも目的</p>

	<p>に実施しています。同時に、普段お互いに接触機会の少ない、多方面にわたって異なる活動をする市民活動団体と地域団体と市民が、顔と顔を合わせた「市民活動フォーラム」を開催します。地域活動活発化と深化につながる一助となることを期待します。</p>	
内容	<p>1. わくわく市民活動フェスタ 概要：①みそら小学校（承認・調整手続きは今後実施）の体育館・校庭で親子で楽しめるフェスタの実施。実施時期は2015年2月度を予定、今後市内5中学校区内の小学校を輪番で実施を予定する。 ②イベント内で「子どもが主役本部」「子どもの出演」「社会体験」「市民活動学習」など子どもの健全育成と社会教育を重視する。 ③準備過程を通じ各種市民団体と地元活動団体と市民が協働し作業を行い交流を深め、協働意識を広げる。</p> <p>2. 市民活動フォーラム 概要：①旭公民館ホールにて、「市民活動フォーラム（仮題）地域課題と市民活動」を2015年8月～9月の間に開催します。②上記フェスタ開催に向けた実践的な協働を踏まえ、地域課題に連動した市民活動の協働のありかた等をお互いに学び合う。</p>	
スケジュール	時期	具体的な取組
	2014年 4月	①（プレ）実行委員会の編成 ②フェスタ概要の検討～原案の作成 ③市と小学校への協力要請と小学校施設使用の許可取得
	5月	①地域活動団体への説明と協力要請 ②地域活動家へ実行委員への参加要請 ③フェスタ目的へつなげる具体的実施事項について検討と意見の交換
	6月 ～ 9月	①（拡大）実行委員会の編成と役割分担による具体的事項の検討 ②フォーラム及びフェスタ実施内容の検討 ③フォーラム実行計画書の作成 ④新規団体等（自治会、社会教育団体、少年スポーツ等団体）へ参加呼びかけと申込の受付 ⑤出展出演団体へ出展出演内容調査・確認 ⑥フォーラムの準備、呼びかけと実施
	10月 ～ 11月	①フェスタ具体的実施計画の作成（出展団体申込の集約、出展内容・必要備品等の申込、会場の下見等） ②広報内容の検討（ポスター・ちらしの原案、配布内容、広報媒体への接触） ③第1回出展代表者会議の開催（出展者紹介、出展内容・必要備品等の申込、会場の下見）
	12月 ～ 翌1月	①出展内容の最終確認、使用機材、全体作業の役割分担の決定 ③使用機材の作成（横断幕、案内掲示板、マニュアル、イベントツール提供品等） ②出展代表者会議第2回の開催（出展内容の最終確認、全体作業の役割分担の決定）
	2015年 2月	①イベント告知（ポスター、チラシ配布、媒体記事） ②イベントの準備～開催～片付け ③参加者のアンケートの実施 ④収支の確定と内部会計監査の実施
3月	①実施結果の確認と評価（反省会と報告書の作成） ②市と関係機関への結果報告	

		③実行委員会の解散
役割分担の想定	(団体の役割) 実行委員会の編成、イベント計画の作成、関係機関への調整、出展団体の募集、収支予算の作成、実行、報告 具体的イベントの準備、運用、後片付け等具体的な作業と調整	
	(市の役割) 補助金の負担 フェスタ内容と実施プロジェクトへの助言とフォーラムへの助言 対象小学校への施設使用許可と協力への援助 市政だよりへのPRや自治会へのちらし配布、みんなで地域づくりセンター広報等広報関係の援助 市役所、公共施設にある備品でイベント当日の不足品等の提供	
他団体との連携	<p>・市内で市民活動を行っている団体に働き掛け、出展と協働運営を実施する。(子ども会育成連合会、障害者団体連合会との連携も含む)</p> <p>・地元小学校のPTA、父母の会、自治会、商工会等へ参画を依頼し、協働運営を実施する。</p> <p>【教育委員会（社会教育担当）との連携】子どもたちが健やかに成長する環境づくりには、学校・家庭・地域社会がそれぞれの役割を自覚して連携することが必要であり、その一端としてこの事業に教育委員会（社会教育担当）と地域活動団体が連携して行うことが大事です。教育委員会へは事前に企画内容をお知らせし、話し合いを持ち、協力やアドバイス等を頂くように致します。その結果としてこの事業は親子のふれあいや子どもの自主性の育成等の目的に、より寄与するものと考えます。また情報交換を重ねながら、会場となる学校に過度の負担になることを避け、子ども側から見た行事の重複を考慮し、PTA（親と教師）との協力を得ながら進行を致します。</p>	
期待される成果	<p>①2013年南小学校での「わくわく市民フェスタ」は1,100人の家族の来場実績があり、今回は900人程度の来場者を見込み、その参加者が楽しみ、学ぶことができます。</p> <p>②イベントの準備から実施に向け約1年をかけて活動する人は、延べ250人・日程度、当日の全体運用で活動する人は200人程度を見込むなど、イベントの開催という共通の目標に向けて多くの異なった分野の人が自分たちの活動の範囲を超えて協働し交流を深めることができます。</p> <p>③年1回のフェスタではあるが、市内12小学校へ巡回し開催することにより偏りなく公平に、小学校を中心とする地域に親や近所の人も参加する身近なまちづくり活動につながります。</p> <p>④出展団体数約40と見込む市民活動団体の存在と最新の活動の状況を知り市民活動参加のきっかけが作れます。</p> <p>⑤フォーラムでは150人程度の方の参加を見込み、市民の市民活動、地域活動の深化の一助になります。</p>	

備考

- 「役割分担の想定」のうち（市の役割）は、事業形態がサポート型にあっては、役割がある場合に記載してください。
- 「期待される効果」は、数値等を記載してください。

提案書類

サクラソウフェスタ実行委員会

平成25年11月15日

四街道市長 様

名称 サクラソウフェスタ実行委員会

所在地

代表者 実行委員長 金木 佳太

印

みんなで地域づくり事業提案書

四街道市みんなで地域づくり事業提案制度実施要綱第7条の規定により、次のとおり提案します。

		新規・ <input checked="" type="checkbox"/> 継続	
事業名	サクラソウフェスタ 2014		
事業概要	四街道市の花であるサクラソウを冠した音楽・ダンス・よさこいのイベント。フリーマーケット・飲食店など多数の出店もある。		
事業分野	<input type="checkbox"/>	保健・医療・福祉	<input type="checkbox"/> 社会教育
	<input checked="" type="checkbox"/>	まちづくり	<input type="checkbox"/> 観光
	<input type="checkbox"/>	農村等振興	<input type="checkbox"/> 文化・芸術・スポーツ
	<input type="checkbox"/>	環境	災害救援
	<input type="checkbox"/>	地域安全	人権擁護・平和
	<input type="checkbox"/>	国際協力	男女共同参画
	<input type="checkbox"/>	子どもの健全育成	情報化社会
	<input type="checkbox"/>	科学技術	<input type="checkbox"/> 経済活動
	<input type="checkbox"/>	職業能力開発・雇用機会拡充	消費者保護
	<input type="checkbox"/>	市民活動支援	その他（ ）
事業部門	<input type="checkbox"/>	拠点づくり部門	<input type="checkbox"/> 地域づくり部門
	<input type="checkbox"/>	アンダー19部門	
事業形態	<input type="checkbox"/>	コラボ型	<input type="checkbox"/> サポート型
市の担当課	政策推進課、産業振興課		
添付書類	(1) みんなで地域づくり事業企画書（様式第2号） (2) みんなで地域づくり事業収支計画書（様式第3号） (3) 提案団体概要書（様式第4号） (4) 団体の規約、会則等の写し (5) 団体の構成員の名簿 (6) 団体の活動内容がわかるもの（パンフレット等） (7) その他（ ）		

備考

- 「事業概要」は、簡潔に記載してください。
- 「事業分野」は、該当する分野に○印をつけるものとし、該当する分野が複数ある場合には、主なものに◎を付け、その他のものに○印を付けてください。
- 「事業部門」及び「事業形態」は、いずれかの部門及び形態に○印を付けてください。

みんなで地域づくり事業企画書

団体名	サクラソウフェスタ実行委員会	
事業名	サクラソウフェスタ 2014	
目的・必要性	四街道市には、平成13年に市民からの公募で選ばれた市の花であるサクラソウがありますが、そのサクラソウを核としたイベントは行われていないことと四街道市には若年層が積極的に参加できる市民の一体感が醸成されるイベントがあまりないことから、こうしたイベントが必要ではないかと考え2011年に第1回目を開催し好評を博しました。本イベントは、市民からの発案に基づいて開催しており、各種団体の連携により実施されています。今回は引き続き第4回目として開催するものですが、さらに参加・協力者、団体を増やし、「みんなで地域づくり」の実現に向けて努力しています。	
内容	日時：平成26年4月20日(日) 10:30～16:30 場所：四街道中央公園野球場 ※雨天の場合屋根付き競技場で規模縮小して開催。 (内容) ・ポップス音楽、合唱、ダンス、よさこい(出演者：5組程度) ・フリーマーケット(出展者：50組) ・事務局スタッフ、ボランティア等50名 一般来場者 1,000名(来場者アンケートを実施予定)	
スケジュール	時期	具体的な取組
	9月～12月	イベント内容の企画 出演者・フリマ出店者の募集 実行委員会(月3回程度開催)
	1月	出演者の最終調整、市民向けチラシの配布
	2月～3月	チラシ、ポスター等作成・配布準備 参加者の調整
	4月	フェスタの開催
役割分担の想定	(団体の役割) フェスタの運営(チラシ・ポスター・HP・パンフレット作成、スポンサー集めなど)	
	(市の役割) 来場者の増加を促す効果的な宣伝、地元商店街・商工会との連携に向けた協力依頼(産業振興課)、会場確保、他団体との連携(政策推進課)	
他団体との連携	これまでも他団体(四街道さくらそうの会、プリムラクラブなど)の参加をお願いしてきました。	
期待される成果	市内の他団体が参加してくれることで、イベント自体の盛り上がりが増すとともに、市民の一体感が醸成されることが期待できます。 地元の子供たちから高齢者まで参加できるようなミニイベント(勾玉づくり、乳牛の乳しぼり等)も企画しており、これに協力する団体など団体間の連携も誘発されることで、地域の活性化が強力に推し進められます。 市としても、このイベントを積極的にPRすることで、市内で「連携」の成功した一事例として内外に強くアピールすることが可能になります。	

備考

- 「役割分担の想定」のうち(市の役割)は、事業形態がサポート型にあっては、役割がある場合に記載してください。
- 「期待される効果」は、数値等を記載してください。

提案書類

にこにこ文庫さとの子会

みかなで
地のつ
のく
ラボ

平成25年12月25日

四街道市長 様

名称 ここにこ文庫さとの子会

所在地

代表者 代表 窪 ケイ子

㊞

みんなで地域づくり事業提案書

四街道市みんなで地域づくり事業提案制度実施要綱第7条の規定により、次のとおり提案します。

		新規・〇継続	
事業名	ここにこ文庫の拡充事業		
事業概要	平成25年度四街道市もねの里の自宅にて家庭文庫を開設し、広く市内の乳児親子の絵本を通じた支援の場、地域子どもたちを育む場を作ってきた。26年度は開設された文庫の拡充と会員増員、参加型文庫の運営、スタッフ研修を行う。		
事業分野		保健・医療・福祉	〇 社会教育
	〇	まちづくり	観光
		農村等振興	〇 文化・芸術・スポーツ
		環境	災害救援
		地域安全	人権擁護・平和
		国際協力	男女共同参画
	◎	子どもの健全育成	情報化社会
		科学技術	経済活動
		職業能力開発・雇用機会拡充	消費者保護
		市民活動支援	その他（ ）
事業部門		拠点づくり部門	〇 地域づくり部門
		アンダー19部門	
事業形態		コラボ型	〇 サポート型
市の担当課	社会教育課、家庭支援課、こども保育課		
添付書類	(1) みんなで地域づくり事業企画書（様式第2号） (2) みんなで地域づくり事業収支計画書（様式第3号） (3) 提案団体概要書（様式第4号） (4) 団体の規約、会則等の写し (5) 団体の構成員の名簿 (6) 団体の活動内容がわかるもの（パンフレット等） (7) その他（ ）		

備考

- 「事業概要」は、簡潔に記載してください。
- 「事業分野」は、該当する分野に〇印をつけるものとし、該当する分野が複数ある場合には、主なものに◎を付け、その他のものに〇印を付けてください。
- 「事業部門」及び「事業形態」は、いずれかの部門及び形態に〇印を付けてください。

みんなで地域づくり事業企画書

<p>団体名</p>	<p>にこにこ文庫さとの子会</p>	
<p>事業名</p>	<p>にこにこ文庫の拡充事業</p>	
<p>目的・必要性</p>	<p>平成25年6月四街道市もねの里の自宅にて家庭文庫を開設し、広く市内の乳児親子の絵本を通じた支援の場、地域の子どもたちを育む場を作ってきた。毎週1回の開催日には午前中当初4組ほどであったが、パンフレットや新聞を発行することで次第に周知され、また常駐するスタッフとのやりとりで乳幼児の親子も安心して通うようになり10月以降は半日で10組24人を超える日もあった。</p> <p>午前中は親子で絵本に親しみ、スタッフの読み聞かせを楽しんで聞いたり、時には子育て情報を交換したりと絵本に親しむだけでなく、子育て世代の居場所的役割も果たした。放課後は幼稚園や小学生が絵本を借りにきては、おしゃべりや工作、幼児に絵本を読んであげたり、宿題もするという子ども達の地域の居場所にもなっている。あわせて、地域の理解も深まり協力姿勢が見られるようになった。</p> <p>6月21日オープンから11月8日までの20回開催で延参加人数は444人。主にはもねの里の参加者が多いが他地区からの参加もあり他地域への波及についても検討していきたいと考えている。</p> <p>課題としては毎週開催するためのスタッフ不足と、参加する親たちの自主的な活動をさらに促していくこと。</p> <p>一人で子育てするのではなく、地域で子ども達を育てていくという地域の意識も向上してきたが、この文庫をきっかけとしてゆくゆくは市内に子ども達と親子の集う場が広がっていくことも目標としている。</p>	
<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・にこにこ文庫の継続開催 週1回10時～17時 ・文庫に参加する親たちが主体的に学ぶ場、たとえば子どもの発達や食事、てづくりのおやつやおもちゃの作り方などを教え合ったり、子育ての悩みを相談しあったりするママサロンの企画運営 ・家庭文庫の活動を紹介する「にこにこ文庫新聞」の発行(別添) ・スタッフの募集と研修事業の実施。 ・他の文庫事例の視察。(茨城市、千葉市など) ・文庫の参加者の意見等を、子どもの読書活動推進や社会教育推進に反映させるよう、各会議等で提案していきたい。 	
<p>スケジュール</p>	<p>時期</p>	<p>具体的な取組</p>
	<p>4月</p>	<p>にこにこ文庫継続開催・ママサロンなどの試行</p>
	<p>5月</p>	<p>文庫新聞の発行・スタッフ研修</p>
	<p>6月～</p>	<p>他の文庫事例視察</p>

様式第2号（第7条）

	8月	夏休み時、小学生向けの文庫開放
	10月～12月	出張文庫開設・文庫新聞の発行・スタッフ研修
	1月～3月	文庫新聞の発行
役割分担の想定	(団体の役割) 文庫運営、広報、スタッフ研修	
	(市の役割) こども保育課・家庭支援課・・・乳幼児親子への文庫の案内チラシ配架 社会教育課・・・小学校への文庫の紹介 図書館・・・放課後の小学生への案内・周知への理解・書籍の団体貸出し	
他団体との連携	子ども会連合会・自治会・PTA・・・参加者の呼びかけ、スタッフ協力 絵本サークル・・・本の選定・読み聞かせ協力 サンデー木工倶楽部木楽会・・・テーブルの作成 市内NPO・文庫連盟 みんなで地域づくりセンター・・・他団体・地域との連携	
期待される成果	子ども関係、子ども会、地域の協力により順調に開催されてきたにこにこ文庫のノウハウを活かして、今年度は活動の充実に力を入れ、次年度以降他地区へ家庭文庫の輪をひろげていくことで、地域での子どもたちの居場所づくりと子育て世代の育ちの場を増やし、子どもたちがそれぞれの地域で豊かに育っていくことを期待している。	

提案書類

栗山みどりの保全事業実行委員会

みどり地
のくまの
コラボ

平成25年11月14日

四街道市長 佐渡 斉 様

名 称 栗山みどりの保全事業実行委員会

所在地

代表者 実行委員長 任海 正衛

㊞

みんなで地域づくり事業提案書

四街道市みんなで地域づくり事業提案制度実施要綱第7条の規定により、次のとおり提案します。

		新規・ 継続	
事業名	栗山みどりの保全事業		
事業概要	①自然環境調査（事業地内の動植物を調べる）②伐竹等（調査や事業整備に必要な伐竹作業）③水田管理（田植えの準備等環境教育に備える作業）		
事業分野		保健・医療・福祉	<input type="radio"/> 社会教育
		まちづくり	<input type="radio"/> 観光
		農村等振興	<input type="radio"/> 文化・芸術・スポーツ
	<input checked="" type="radio"/>	環境	<input type="radio"/> 災害救援
		地域安全	<input type="radio"/> 人権擁護・平和
		国際協力	<input type="radio"/> 男女共同参画
		子どもの健全育成	<input type="radio"/> 情報化社会
		科学技術	<input type="radio"/> 経済活動
		職業能力開発・雇用機会拡充	<input type="radio"/> 消費者保護
		市民活動支援	<input type="radio"/> その他（ ）
事業部門		拠点づくり部門	<input type="radio"/> 地域づくり部門
		アンダー19部門	
事業形態	<input type="radio"/>	コラボ型	<input type="radio"/> サポート型
市の担当課	都市部都市計画課（みどりの推進室）		
添付書類	(1) みんなで地域づくり事業企画書（様式第2号） (2) みんなで地域づくり事業収支計画書（様式第3号） (3) 提案団体概要書（様式第4号） (4) 団体の規約、会則等の写し (5) 団体の構成員の名簿 (6) 団体の活動内容がわかるもの（パンフレット等） (7) その他（ ）		

備考

- 1 「事業概要」は、簡潔に記載してください。
- 2 「事業分野」は、該当する分野に○印をつけるものとし、該当する分野が複数ある場合には、主なものに◎を付け、その他のものに○印を付けてください。
- 3 「事業部門」及び「事業形態」は、いずれかの部門及び形態に○印を付けてください。

みんなで地域づくり事業企画書

団体名	栗山みどりの保全事業実行委員会	
事業名	栗山みどりの保全事業	
目的・必要性	市から提案のあった上記事業は、みどりの基本計画の中の一事業であり、これを具体化するために協働し、里山の整備をする。 (詳細は別紙のとおり)	
内容	①自然環境調査を行い、基本計画作成の資料とする。 ②上記調査及び場内整備のための除草・伐竹を行う。 ③水田の維持・管理を行い、環境教育に備える。(詳細は別紙のとおり)	
スケジュール	時期	具体的な取組
	4～3月	生物等の調査
	4～3月	仮開園地域の保全作業、全体の整備作業
	4～3月	稲作の実施
役割分担の想定	(団体の役割) 持っている知識や技術を発揮し、市にない分野を補う。 当事業において、興味があり得意とする分野について協力する。	
	(市の役割) 協働のために必要な施設や備品などの調達及び用地や道路などの市で行うべき基礎的諸作業並びに規模・過酷度・難易度など、作業内容による選別をし、団体と協議のうえ分担する。	
他団体との連携	地権者や関連する区・自治会に参加を呼び掛けるとともに、一般市民を市の広報などで募集する予定。(詳細は別紙のとおり)	
期待される成果	手作りの施設として市民に愛着が湧き、以って市民の協力により良好な維持管理が期待できる。また、整備金額が大幅に抑えられる。 (詳細は別紙のとおり)	

備考

- 1 「役割分担の想定」のうち(市の役割)は、事業形態がサポート型にあつては、役割がある場合に記載してください。
- 2 「期待される効果」は、数値等を記載してください。

(別紙)

目的・必要性

市は、市民の皆様身近な子育て・教育・健康・福祉・生活環境などの各分野にわたる36の施策を「未来の街づくり 36のアクション」として計画し、その一施策である「緑のまちづくりの推進」として、市民参加により策定したみどりの基本計画に基づき、同計画推進委員会を始めとする市民との協働により、市民生活に潤いをもたらす里山の保全、自然景観の保持、自然と触れ合う憩いの場の創出などに総合的・一体的に取り組む事業を行なうこととしています。

近年、集落の周囲の斜面にある雑木林やその周囲の谷津田を含めたいわゆる里山が、森林破壊や放置による荒廃、宅地開発などにより本来の里山の環境を失いつつあることから、里山の保全に取り組みます。

また、今の子どもたちがなかなか経験できない農林体験や、四季を通じて日本の自然、気候、風土を体で感じることでできる環境教育のため、現在は休耕田となり、人が関与しなくなった結果荒れてしまった田を水田として復旧させ、その後の維持・管理を行います。

市と市民が協働で、この事業に取り組み、完成させるためには、植生などの調査を始め、その結果を基にした基本計画の作成、計画の実施段階においては散策路整備などの各段階で各団体の持っている知識を発揮し、よりよい里山の整備をしていきます。

内容

市の計画は、市街地近郊の良好な樹林、里山、自然景観などが一体的に存在する事業用地として栗山地先を選定、借地し、「栗山みどりの保全事業」として進めるもので、事業区域は、約5.8ヘクタールあります。

整備内容について、市は、バイオトイレや水道設備の設置を行ない、市民は、前年度に行った自然植生調査や企画委員会の意見を基にした基本計画の作成、整備に必要な伐竹や除草、散策路の整備及び復元した水田の維持・管理などの整備を行います。

特にこの事業では、極力現況の良好な自然を生かし、手作りで整備を行います。詳細は別紙「栗山みどりの保全事業スケジュール」のとおりです。

他団体との連携

事業用地の地権者や関連する栗山郷区及び馬洗区、近隣のつくし座自治会及び県営栗山団地自治会に参加を呼びかけるとともに、一般市民を市の広報紙やホームページで募集しています。また、みどりの基本計画推進委員会に所属す

(別紙)

る総合公園の植生調査の会、特定非営利活動法人四街道メダカの会、四街道里山の会、四街道フォレスト、四街道水辺の会などが中心となって活動を行います。

期待される効果

①自然環境調査・基本計画の作成

②場内整備のための除草・伐竹

③散策路等の場内整備

④水田の維持・管理

・・・の作業を外注した場合、①だけでも百万単位になると思われ、市にとって費用面で大きな効果となる。また、費用面のみでなく、市民の手作りによる施設として地域や市民の方々に愛着が生まれ、良好な運営、維持・管理が期待できる。この結果、総体的に・・・

緑地の保全

自然環境・自然景観の保持

里山の修復

生物多様性の支援

自然と触れ合う憩いの場の創出

情操教育の支援

環境学習の支援 など

《自然を題材にしたあらゆる活動の場》として、幅広く市民の方々に利用していただける。

栗山みどりの保全事業スケジュール

赤書き = ボランティア協働作業	平成26年度												平成27年度												平成28年度											
	全面公開												全面公開												全面公開											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
基本項目	用地賃借	森林保険	場所変更(増築)	伐竹(下草刈り)	燃料・燃焼用消耗品	伐竹・枝等処理	損害賠償保険	自然環境調査	設計書作成	設計図作成	道路・散策路、駐車場整備	休耕田復旧及び畦整備	ベンチ設置	ロープ橋工	看板(表示)設置	その他工(安全対策等)	場内(ごみ)清掃	場内巡回ハトール	道路・散策路除草	水田管理(除草・代掻き・水路掃除)	仮設トイレ	手洗いシンク(ワカ)	仮設トイレ維持(汲み取り)	本設トイレ設置	維持管理・汚泥清掃	電気・水運代	トイレ清掃	トイレ用消耗品	ハウス(倉庫)設置	トイレ設置に伴う文化財調査						
事前準備	用地賃借	森林保険加入継続	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	森林保険加入継続	森林保険加入継続	森林保険加入継続	森林保険加入継続	森林保険加入継続	森林保険加入継続	森林保険加入継続	森林保険加入継続	森林保険加入継続	森林保険加入継続	森林保険加入継続	森林保険加入継続	森林保険加入継続	森林保険加入継続	森林保険加入継続	森林保険加入継続	森林保険加入継続	森林保険加入継続	森林保険加入継続	森林保険加入継続	森林保険加入継続	森林保険加入継続	森林保険加入継続	森林保険加入継続	森林保険加入継続					
計画	自然環境調査	設計書作成	設計図作成	道路・散策路、駐車場整備	休耕田復旧及び畦整備	ベンチ設置	ロープ橋工	看板(表示)設置	その他工(安全対策等)	場内(ごみ)清掃	場内巡回ハトール	道路・散策路除草	水田管理(除草・代掻き・水路掃除)	仮設トイレ	手洗いシンク(ワカ)	仮設トイレ維持(汲み取り)	本設トイレ設置	維持管理・汚泥清掃	電気・水運代	トイレ清掃	トイレ用消耗品	ハウス(倉庫)設置	トイレ設置に伴う文化財調査	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険							
現地作業	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)	伐竹(下草刈り)					
維持・管理	場内(ごみ)清掃	場内巡回ハトール	道路・散策路除草	水田管理(除草・代掻き・水路掃除)	仮設トイレ	手洗いシンク(ワカ)	仮設トイレ維持(汲み取り)	本設トイレ設置	維持管理・汚泥清掃	電気・水運代	トイレ清掃	トイレ用消耗品	ハウス(倉庫)設置	トイレ設置に伴う文化財調査	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険					
その他	仮設トイレ	手洗いシンク(ワカ)	仮設トイレ維持(汲み取り)	本設トイレ設置	維持管理・汚泥清掃	電気・水運代	トイレ清掃	トイレ用消耗品	ハウス(倉庫)設置	トイレ設置に伴う文化財調査	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険	全国市長会市民総合賠償補償保険					

提案書類

よつグルメ研究会

平成25年11月15日

四街道市長 佐渡 斉 様

名 称 よつグルメ研究会

提案団体 所在地

代表者 会長 谷 嶋 み な

みんなで地域づくり事業提案書

四街道市みんなで地域づくり事業提案制度実施要綱第7条の規定により、次のとおり提案します。

		新規 <input checked="" type="radio"/> 継続		
事業名	つくっちゃおう！よつかいどうグルメ			
事業概要	四街道市のご当地グルメの研究・試作・普及啓発			
事業分野	<input type="checkbox"/>	保健・医療・福祉	<input type="checkbox"/>	社会教育
	<input type="radio"/>	まちづくり	<input type="radio"/>	観光
	<input type="radio"/>	農村等振興		文化・芸術・スポーツ
	<input type="checkbox"/>	環境		災害救援
	<input type="checkbox"/>	地域安全		人権擁護・平和
	<input type="checkbox"/>	国際協力		男女共同参画
	<input type="checkbox"/>	子どもの健全育成		情報化社会
	<input type="checkbox"/>	科学技術	<input type="radio"/>	経済活動
	<input type="radio"/>	職業能力開発・雇用機会拡充		消費者保護
	<input type="radio"/>	市民活動支援		その他 ()
事業部門	<input type="checkbox"/>	拠点づくり部門	<input type="radio"/>	地域づくり部門
		アンダー19部門		
事業形態	<input type="radio"/>	コラボ型	<input type="checkbox"/>	サポート型
市の担当課	政策推進課、産業振興課			
添付書類	(1) みんなで地域づくり事業企画書(様式第2号) (2) みんなで地域づくり事業収支計画書(様式第3号) (3) 提案団体概要書(様式第4号) (4) 団体の規約、会則等の写し (5) 団体の構成員の名簿 (6) 団体の活動内容がわかるもの(パンフレット等) (7) その他 ()			

備考

- 「事業概要」は、簡潔に記載してください。
- 「事業分野」は、該当する分野に○印を付けるものとし、該当する分野が複数ある場合には、主なものに◎印を付け、その他のものに○印を付けてください。
- 「事業部門」及び「事業形態」は、いずれかの部門及び形態に○印を付けてください。

みんなで地域づくり事業企画書

<p>団体名</p>	<p>よつグルメ研究会</p>
<p>事業名</p>	<p>つくっちゃおう！よつかいどうグルメ</p>
<p>目的・必要性</p>	<p>【きっかけ】 平成24年度までの取り組み ①つくっちゃおう四街道のご当地グルメへの参加 平成24年度に市みんな地域づくりセンターが主催した「つくっちゃおう四街道のご当地グルメ」に参加。4回の検討会を経て、グルメにするべき製品や材料の方向性が明確になりました。最後の話し合いで、今後も調査・研究・検討を進めるべきとの意見でまとまり、『よつグルメ研究会』が立ち上がりました。 ②市民への問いかけと各店舗の協力のために よつグルメ研究会において、今後どのような調査・研究・検討を行うべきかですが、市民の認知と商店の協力が重要であることが確認されました。 市民への問いかけと認知を得るためには、食べる事が出来る店を探すこと、イベントでの盛り上げ、祭り会場で紹介、などが効果的です。また、各店舗の理解協力を得るためには、レシピを限定しないこと、食材の安定供給、加工やアレンジしやすさが欠かせません。 ③鹿放パンと四街道ガレットを柱に ご当地グルメの条件は、そこに根付いている（いた）もの、地場産のものを加工したもの、シンボルやイメージとの関連などがあげられます。 当会では、鹿放ヶ丘で生産された小麦を使い開拓時代に製造販売していた「鹿放パン」と、地場産のそば粉と旬の素材等を使いルボン大尉も好んだと言われる「ガレット」を柱とし、ご当地グルメとして普及を視野に活動を展開してまいります。</p> <p>【具体的アクション】 平成25年度の取り組み ①鹿放ヶ丘小麦を使って鹿放ヶ丘開拓史に記載されていた開拓時のレシピを再現し、又当時の鹿放パンの印章を公益財団法人四街道市地域振興財団に商標登録していただき、よつグルメ研究会でその使用許可をいただきました。 ②四街道の四の字を四つ集めてしあわせ（四合わせ）のロゴを作り、四街道産の小麦で作ったクッキーに「しあわせクッキー」と名付けました。 ③四街道市特産品生産協議会のカラーピーマンやその他の産品を使って、よつグルメ研究会のオリジナルのスパイスブレンドを研究、検討してカレーの風味はあるが辛い子ども食べられるように工夫をしたスープカレーを作りました。 ④これらを普及するための第一歩として「ちばユニバーサル農業フェスタ in 四街道」や「産業まつり」などで紹介・販売しました。 ⑤用意した商品はすべて完売し、美味しい、どこで食べられるのかという問い合わせをたくさんいただきました。 現在、鹿放パンをランチメニューに取り入れているお店1件、商品として販売しているお店は1件です。 ⑥学校給食栄養士との連携も出来、栄養士業務に差し障りのない範囲で協力をしていただいています。試作会での味の評価やイベントでの販売などの協力をさせていただきました。 ⑦栄養士の勉強会でスープカレーや鹿放パンの講習会をさせていただき、何らかの形で学校給食に取り入れていただきたいと思っています。 ⑧四街道市商工会とも連携を取ることができ、試作会やイベントでの協力、市内商工会加盟者へのアンケート用紙の配布で協力させていただきました。</p> <p>【今後の展開】 平成26年度実施する理由 ①よつグルメ研究会の名称も少しずつ認知され、事業やイベントなどでの協力依頼や市内の情報提供の依頼なども入ってくるようになり、四街道のグルメ情報の中核を担えつつあります。 ②更に市民への認知と商店の協力を得るためにイベントでの盛り上げ、祭り会場での</p>

様式第2号（第7条）

	<p>紹介が効果的ですので今年もイベント会場や祭りに参加して認知、啓蒙をしていく必要があります。</p> <p>③鹿放パンを「鹿放のむかしパン」と名称をあらため大事にしつつ、新しい商品の開発をし、四街道の産品の消費拡大と四街道のグルメ作り活動を更に進めていくことを目的にしていきます。</p> <p>④ガレットも徐々に浸透してきていますので、四街道パン、ガレットを店舗で食べられるように更に飲食店などへの働きかけをしていきます。</p> <p>⑤その他、四街道のグルメに関する情報の発信基地になれるように情報の収集にも力を入れていきます。</p>																				
<p>内容</p>	<p>よつグルメ研究会の事業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 商品開発や販売促進ノウハウの調査研究（勉強会開催） 2. 試作会、試食会の開催 3. 鹿放パンの試作と試験販売 4. 四街道ガレットの試作と試験販売 5. 市内各店舗との共同企画を進める 6. 学校給食栄養士の参加で、学校給食を通して『よつグルメ研究会』の商品がどのような形で登場できるのか検討していきます。 7. 商品（土産品・軽食・惣菜）サンプル、パッケージづくり 8. 朝市や産業まつり等での試作販売や広報啓発 																				
<p>スケジュール</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">時 期</th> <th>具体的な取組</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26年 4月</td> <td>リーフレット作り</td> </tr> <tr> <td>26年 5月</td> <td>勉強会、栄養士との交流会</td> </tr> <tr> <td>26年 6月</td> <td>パッケージ製作</td> </tr> <tr> <td>26年 7月</td> <td>勉強会、飲食店との交流会</td> </tr> <tr> <td>26年 9月</td> <td>試作会</td> </tr> <tr> <td>26年10月</td> <td>パン店との交流会</td> </tr> <tr> <td>26年11月</td> <td>産業まつり参加</td> </tr> <tr> <td>27年 2月</td> <td>試作と試食会（「よつグルメの報告会」を兼ねて）</td> </tr> <tr> <td>27年 3月</td> <td>商品サンプル、パッケージ製作と報告書作成</td> </tr> </tbody> </table>	時 期	具体的な取組	26年 4月	リーフレット作り	26年 5月	勉強会、栄養士との交流会	26年 6月	パッケージ製作	26年 7月	勉強会、飲食店との交流会	26年 9月	試作会	26年10月	パン店との交流会	26年11月	産業まつり参加	27年 2月	試作と試食会（「よつグルメの報告会」を兼ねて）	27年 3月	商品サンプル、パッケージ製作と報告書作成
時 期	具体的な取組																				
26年 4月	リーフレット作り																				
26年 5月	勉強会、栄養士との交流会																				
26年 6月	パッケージ製作																				
26年 7月	勉強会、飲食店との交流会																				
26年 9月	試作会																				
26年10月	パン店との交流会																				
26年11月	産業まつり参加																				
27年 2月	試作と試食会（「よつグルメの報告会」を兼ねて）																				
27年 3月	商品サンプル、パッケージ製作と報告書作成																				
<p>役割分担 の想定</p>	<p>（団体の役割）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主的な活動の実施 ・グルメの研究と試作品づくり ・四街道市内のグルメ情報の収集 <p>（市の役割）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試作会会場（わろうべの里）の確保（9時～15時） ・勉強会や交流会会場（みんなで地域づくりセンター又は市役所）の使用 ・取組みの浸透の為に市政だよりで研究経過の広報 																				
<p>他団体との 連携</p>	<p>四街道市商工会、四街道栄養士会、鹿放ヶ丘区、日替わりシェフの店さくらそう</p>																				
<p>期待される 成果</p>	<p>四街道市の地産地消を推進するための基点となる。</p> <p>四街道の土産品として、カステラ、クッキーの商品化を目指し、市内の食品加工、菓子店の活性化につなげる。</p> <p>平成25年度で連携することができた学校給食の栄養士さん達との関係をさらに深めて、食育の一環として活用してもらう。</p> <p>よつグルメの開発商品を使用したメニューを提供する、協力店の拡大をめざします。</p>																				

備考

- 1 「役割分担の想定」のうち（市の役割）は、事業形態がサポート型にあつては、役割がある場合に記載してください。
- 2 「期待される成果」は、数値等を記載してください。

提案書類

千代田地区市民有志会 千代田花壇愛好会

平成25年11月15日

四街道市長 佐渡 斉 様

名 称 千代田地区市民有志会

千代田花壇愛好会

所在地

代表者 代表 田中 莊三郎 印

みんなで地域づくり事業提案書

四街道市みんなで地域づくり提案制度実施要綱第7条の規定により、次のとおり提案します。

		○新規 ・ 継続
事業名	地域みんなの花と緑水辺・交流・憩い広場	
事業概要	最近時間と知恵はあるけど、これといってやることのない定年後の男性が増えていきます。ちょっと昔のように知恵とおせっかいで、近隣所で子育てをしたように若い世代との交流をもち、道であっても気軽に声を掛け合えるような地域密着のイベント（昔の遊び・イルミネーション・灯籠流し・鯉のぼり祭り・グランドゴルフ等）の出来る場所を作り、調整池と緑地帯（高圧線下）の調和を主体とした環境保全と維持管理やシニア世代と子供中心に若い世代との交流を深める広場を設置し、楽しく健康的で安全に生活出来る街づくりを図りたい。	
事業分野	◎環境の保全 ○まちづくりの推進	
事業部門	地域づくり部門	
事業形態	サポート型	
市担当課	都市計画課	
添付書類	(1)みんなで地域づくり事業企画書（様式第2号） (2)みんなで地域づくり事業収支計画書（様式第3号） (3)提案団体概要書様式（第4号） (4)団体の規約、会則等の写し (5)団体の構成員の名簿 (6)団体の活動内容がわかるもの（パンフレット等） (7)その他	

備考

- 1 「事業概要」は、簡潔に記載してください。
- 2 「事業分野」は、該当する分野に○印をつけるものとし、該当する分野が複数ある場合には、主なものに◎をつけ、その他に○印を付けてください。
- 3 「事業部門」及び「事業形態」は、いずれかの部門及び形態に○印を付けてください。

みんなで地域づくり事業企画書

団体名	千代田地区市民有志会・花壇愛好会	
事業名	地域みんなの花と緑水辺・交流と憩いの広場	
担当課	都市計画課	
目的・必要性	<p>調整池周囲と緑地帯の高圧線下伐採に伴う管理必要性、財産（緑地等）管理維持保全など充分とはいえません。保全上の倒木や草刈りの維持管理実行しながら花木、草花植え付けし四季通して花が見られる環境整備を行うことを目的。</p> <p>調整池の市緑地帯の調和と主体とした環境保全の維持管理しながらシニア世代と子供との交流を高める広場を地域住民手作りの市民多目的広場に遊具・健康器具等の設置し市民の健康維持促進をはかる。</p> <p>①昔の遊び、②ゲートボール、③グランドゴルフ、④イベント、⑤多目的広場、⑥イルミネーション。3カ年継続事業として。</p>	
内 容	<p>高圧線下の緑地帯伐採に依る環境変化に伴う線下緑地帯が丸裸になりました。傾斜地数本残っています。アジサイ株植えています・球根類花木、草花など地域市民の皆様よりご提供受けたいと考えています。市民の皆さんのお知恵拝借し、ご指導と協力をお願いし市民の結束力による里山を花山に変えて行こうと思います。成果はでるのは3年継続する必要あり。</p> <p>広場の整備 亀崎地区ゲートボール、昔のあそび、鯉のぼり祭り、灯籠、イルミネーション等に活用し、地域を活性化していきたいと思っています。</p>	
スケジュール	時 期	具体的な取組 工程
	3月～4月	準備 花木 草刈り
	5月～6月	広場整備 草花（コスモス） 草刈り 鯉のぼり祭り
	7月～8月	広場整備 草刈り 灯籠流し
	9月～10月	広場整備 草花（球根）
	10月～11月	草花（菜の花） 草刈り イルミネーション
	12月～2月	枯れ枝等の処理
役割分担	団体の役割	事業を実施する体力および人材の専門知識、技術人力、総合力は充分兼ね備えています。
	市の役割	市役所の土地である高圧線下を含む緑地帯の使用をみとめていただくこと。 行政側の側面からのご指導ご協力をお願いします。
他団体との連携	亀崎区の市民連携、地域の子供会、自治会連携協力	
その他事業実施にあたり必要な事項	行政財産の使用許可、土地借地料の減免、土地使用・利用確認、3年間継続事業と認めてほしい	

提案書類

休耕地等村おこし同好会

平成25年11月14日

四街道市長 佐渡 斉 様

名 称 休耕地等村おこし同好会

所在地

代表者 休耕地等村おこし同好会

会長 三浦 誠 ⑩

みんなで地域づくり事業提案書

四街道市みんなで地域づくり事業提案制度実施要綱第7条の規定により、次のとおり提案します。

新規・継続		
事業名	休耕地等村おこし事業	
事業概要	荒廃しつつある休耕地を利用してホンモロコを養魚し、休耕地等の活用の推進及びホンモロコのブランド化めざす。	
事業分野	<input type="checkbox"/> 保健・医療・福祉	<input type="checkbox"/> 社会教育
	<input type="checkbox"/> まちづくり	<input type="checkbox"/> 観光
	<input checked="" type="checkbox"/> 農村等振興	<input type="checkbox"/> 文化・芸術・スポーツ
	<input type="checkbox"/> 環境	<input type="checkbox"/> 災害救援
	<input type="checkbox"/> 地域安全	<input type="checkbox"/> 人権擁護・平和
	<input type="checkbox"/> 国際協力	<input type="checkbox"/> 男女共同参画
	<input type="checkbox"/> 子どもの健全育成	<input type="checkbox"/> 情報化社会
	<input type="checkbox"/> 科学技術	<input type="checkbox"/> 経済活動
	<input type="checkbox"/> 職業能力開発・雇用機会拡充	<input type="checkbox"/> 消費者保護
	<input type="checkbox"/> 市民活動支援	<input type="checkbox"/> その他 ()
事業部門	<input type="checkbox"/> 拠点づくり部門	<input type="checkbox"/> 地域づくり部門
	<input type="checkbox"/> アンダー19部門	
事業形態	<input type="checkbox"/> コラボ型 <input type="checkbox"/> サポート型	
市の担当課	産業振興課	
添付書類	(1) みんなで地域づくり事業企画書 (様式第2号) (2) みんなで地域づくり事業収支計画書 (様式第3号) (3) 提案団体概要書 (様式第4号) (4) 団体の規約、会則等の写し (5) 団体の構成員の名簿 (6) 団体の活動内容がわかるもの (パンフレット等) (7) その他 (スケジュール表、計画図)	

備考

- 「事業概要」は、簡潔に記載してください。
- 「事業分野」は、該当する分野に○印をつけるものとし、該当する分野が複数ある場合には、主なものに◎を付け、その他のものに○印を付けてください。
- 「事業部門」及び「事業形態」は、いずれかの部門及び形態に○印を付けてください。

みんなで地域づくり事業企画書

団体名	休耕地等村おこし同好会	
事業名	休耕地等村おこし事業	
目的・必要性	休耕地等の活用及びホンモロコのブランド化を目指すために、休耕地の地の利を生かし養魚する必要がある。	
内容	休耕地を 200 m ² に 20 cmほど掘下げ水を張りホンモロコを養魚する。2,3年後をめどに、給食等に提供するなどを行い四街道のブランド化を進める。	
スケジュール	時期	具体的な取組
	4月末	試験池に卵を放流。 周辺不耕作地の草刈り
	5月～10月	稚魚の飼育、池周辺の管理
	11月～	水揚げ、試食、販売
役割分担の想定	(団体の役割)	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 養魚 ・ 不耕作地の管理 ・ 水稲等の栽培 	
他団体との連携	(市の役割)	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域特産品づくりの支援 ・ 農業経営者の育成と支援 ・ 雇用機会の拡充への支援 	
期待される成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業事業団体との水田づくり ・ シルバー人材センター ・ 四街道市みんなで地域づくりセンター 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 耕作放棄地の対策、新たなブランドづくり、周辺環境の保全、雇用の促進、地産地消の促進、再生資源の活用 	

備考

- 1 「役割分担の想定」のうち(市の役割)は、事業形態がサポート型にあっては、役割がある場合に記載してください。
- 2 「期待される効果」は、数値等を記載してください。

<休耕地等村おこし事業の要旨>

1. 要旨

市内には 240 ヘクタールの水田があり、そのうち 67.1 ヘクタールが休耕地となっている。その多くが J R 総武本線の南側の吉岡地区及び南波佐間地区等に存在する。これらの土地は休耕地ならまだ良いがその殆どが耕作放棄地となっている。

吉岡地区の水田約 28 h a の殆どが耕作放棄地（耕作地約 3 h a 程度）となっておりその面積は約 9 割に及んでいる。

既に一部埋め立てしたところがあるが、その他は藪化が進みつつあり、このまま放置しておくとも埋め立てと藪化が更に進行し防犯・防災の面から「安全・安全なまちづくり」及び「自然と調和したまちづくり」に支障が出る。

また、水田は、里山等の景観を創出されるだけでなく高台地域の大きな治水の役目を果たしている。無秩序に埋め立てするとこれが堰となり、治水的な役割に大きな支障が出る。

このような状況の中、「休耕地等村おこし同好会」は、吉岡字子ハ清水地区の良質で豊富な地下水と休耕地を活用「ホンモロコ」を養殖し、新たな「地域ブランド品の開発」を目指すと共に、耕作放棄地の解消、地域の活性化、更には健康な市民づくりを目指します。

「ホンモロコ」は、琵琶湖の特産魚として、関西地域では古くから親しまれてきましたが、近年琵琶湖での漁獲高が減少したところから、高級魚として高値で取引されています。

体調 8 c m 前後に成長し、川魚特有の臭みがないところから、鳥取県では小中学校の学校給食にも採用されるようになり、小魚を食べる食文化の継承にもなっています。

養魚事業は鳥取県や埼玉県だけではなく千葉県でも行っており、千葉県では千葉県水産総合センター内水面研究所が中心となり、試験や技術普及に取り組んでいます。

君津では、平成の銘水百選に選ばれた「生きた水久留里」上質な井戸水と休耕地を使って 7 名の生産者が「久留里モロコ生産組合」を設立し養殖に取り組んでいます。平成 20 年 10 月には、地元の応援を得てロゴマーク「くるりモロコ」を作成し生産拡大と、PR 活動を展開し新たな地域ブランドを目指しています。

モロコは養魚の中でも他の生物の養魚に比較して、短期間で収穫されること、反別当りの収穫額が多いこと、身近に消費出来ること、養魚設備が安価であること等のメリットが多い。

モロコの養魚には豊富できれいな水を必要とします。「四街道町の文化財第 5 号」に吉岡の名所の一つとして「親が飲めば古酒、子が飲めばただの水」といわれを持つ「子ハ清水が、また「四街道の歴史第 8 号」にも旭小学校百年誌の中に「印旛郡誌による『子

『ハ清水』の水が滾々と湧き出ているとあり相当素晴らしい泉があったと思われ、現在も吉岡に「子ハ清水」と言う小字が存在しています。しかし、「子ハ清水」を含む上流周辺は、鷹の台団地として造成され旧来の里山は失われ変化していますが、今でも周辺の休耕田縁辺部では清水が湧き出ている。そこで良質な地下水と休耕田を活用しホンモロコの養殖による新たなブランド品の開発を目指します。

養魚池の畔道や池周辺には、吉岡地先でクリーンセンター再資源化している木廃材の加工チップをぬかるみ防止や雑草防止に活用しゴミの減量化に寄与します。

養魚池の管理や給餌については、休耕地等村おこし同好会及び地元農家との協働通して行う。今後シルバー人材センター等の活用による高齢者の地域活動の場づくりと高齢者の健康づくりに寄与してするようにしたい。(シルバー養魚事業の実施)。

また、この事業が軌道に乗った暁には生産者組合を設置し、より安定した生産と流通経路確保及び市場の拡大を図りたい。

養殖したホンモロコについては、市内のグルメ研究会等の料理研究ボランティアを活用し製品開発、販売、PR等を行います。

近い将来には、廃校となっている元旭小学校吉岡分校の校舎を旧旭地区の地域づくりセンターとして活用し、更なる地域ブランドの開発及び地元農産物の販売を行い、農産物の地産地消に努めるとともに農村部と市街地部の交流の場所として位置付けていく。

モロコ養魚事業は、治水、防災、防犯、景観及び産業振興等の観点から休耕地等の土地利用に一步踏み出すとともに「みどりと土に親しむ市民づくり」、「田園と調和した住環境のまちづくり」にふさわしい土地利用の推進の寄与を目的とする。

まずは村おこしの起爆剤として吉岡地区の2000㎡休耕地から事業を展開し、将来的には地域全域に事業を展開する。更には市全体に浸透させる。

2. 土地利用の将来方針

地権者及び市民ボランティア団体と協働で休耕地等の再生を諮り新たな土地利用を推進する。

① エコビレッジ（環境に優しい既存集落の形成）

- ・ 田園周辺は、江戸時代以前からの民家が存在し屋敷周辺には大きな屋敷林が存在し多くのみどりを提供している。農地の保全とともにこれらの屋敷林を取り組んだエコビレッジ創出していく。木材チップや自然エネルギーを活用した環境に優しい集落を推進する。

② 自然の地形を生かした壮大な里山公園

- ・ また田園縁辺部に昔から変わらぬ自然豊かな里山が存在しており、一部の市民の散策路となっているが、耕作の推進とも農道を整備し、木出城跡から川村美術館を結ぶ自然豊かな市民の「文化の散策路」とする。更には通学路と一体化したサイクリングロードの創出する。

3. 効果

本事業は休耕地等を利用した「地域ブランド」の創出だけでなく次の効果促進が期待される。

- ・ 土地利用の促進
- ・ 就労の場所づくり
- ・ 新たなブランド作り
- ・ 再生資源の利用（木材チップ、家庭生ごみ）
- ・ 健康な市民づくり
- ・ 地産地消の促進（給食食材の提供、ふれあい給食、サクラソウ、産業祭、居酒屋への提供）
- ・ 児童生徒への体験学習の場所づくり
- ・ 安全、安心のまちづくり
- ・ 水質の保全
- ・ 治水、防災の促進

4. 当初事業の展開

平成26年度より2000㎡程度の休耕地から事業を展開していく。

① モロコの養殖

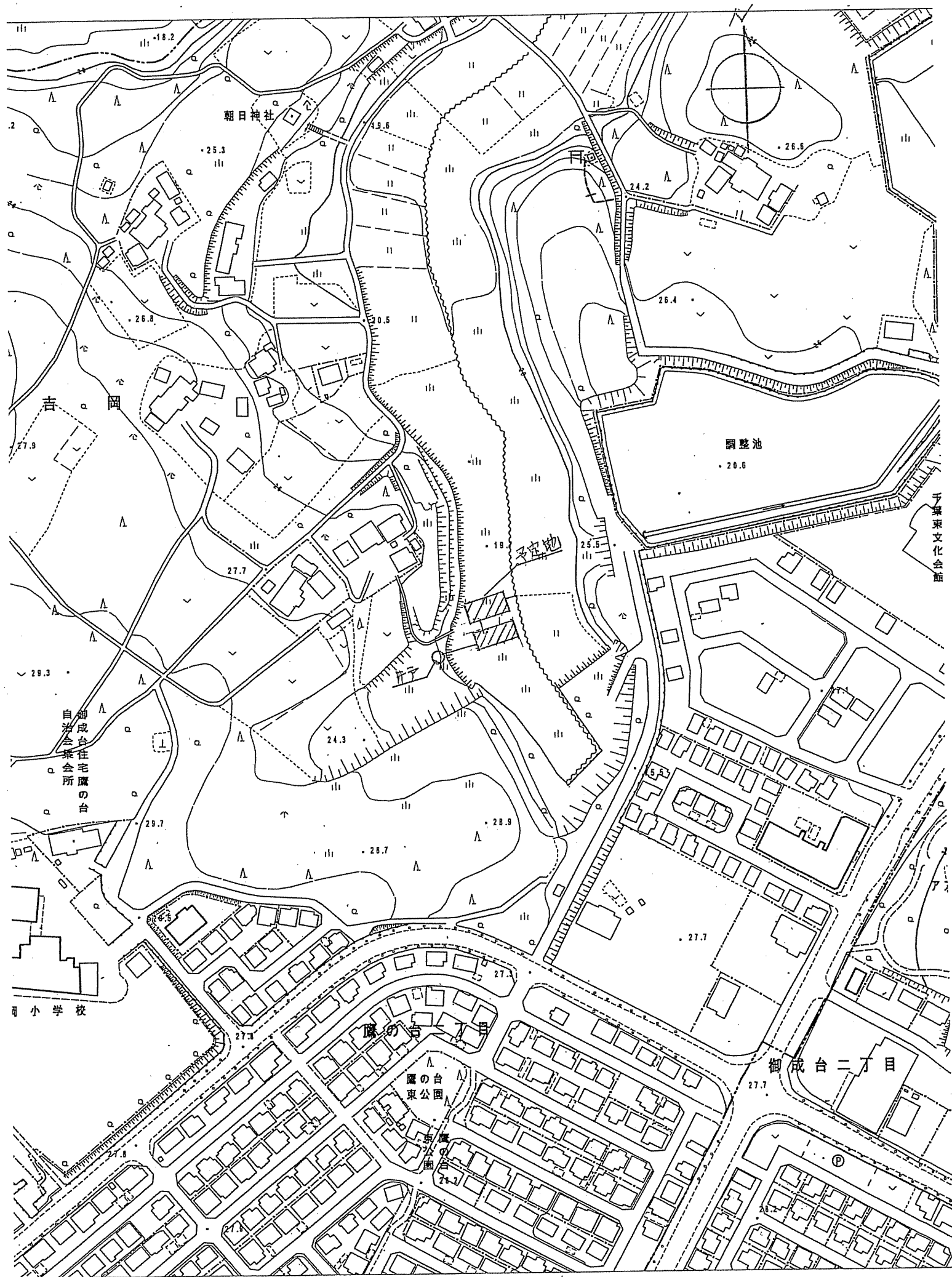
- ・ 平成26年度より直ぐに食することができるまた収益性の高いモロコを200㎡程度の養殖池2か所に設置し試験養殖を行い、経過を見ながら事業を拡大していく。

② 休耕地の稲作づくり

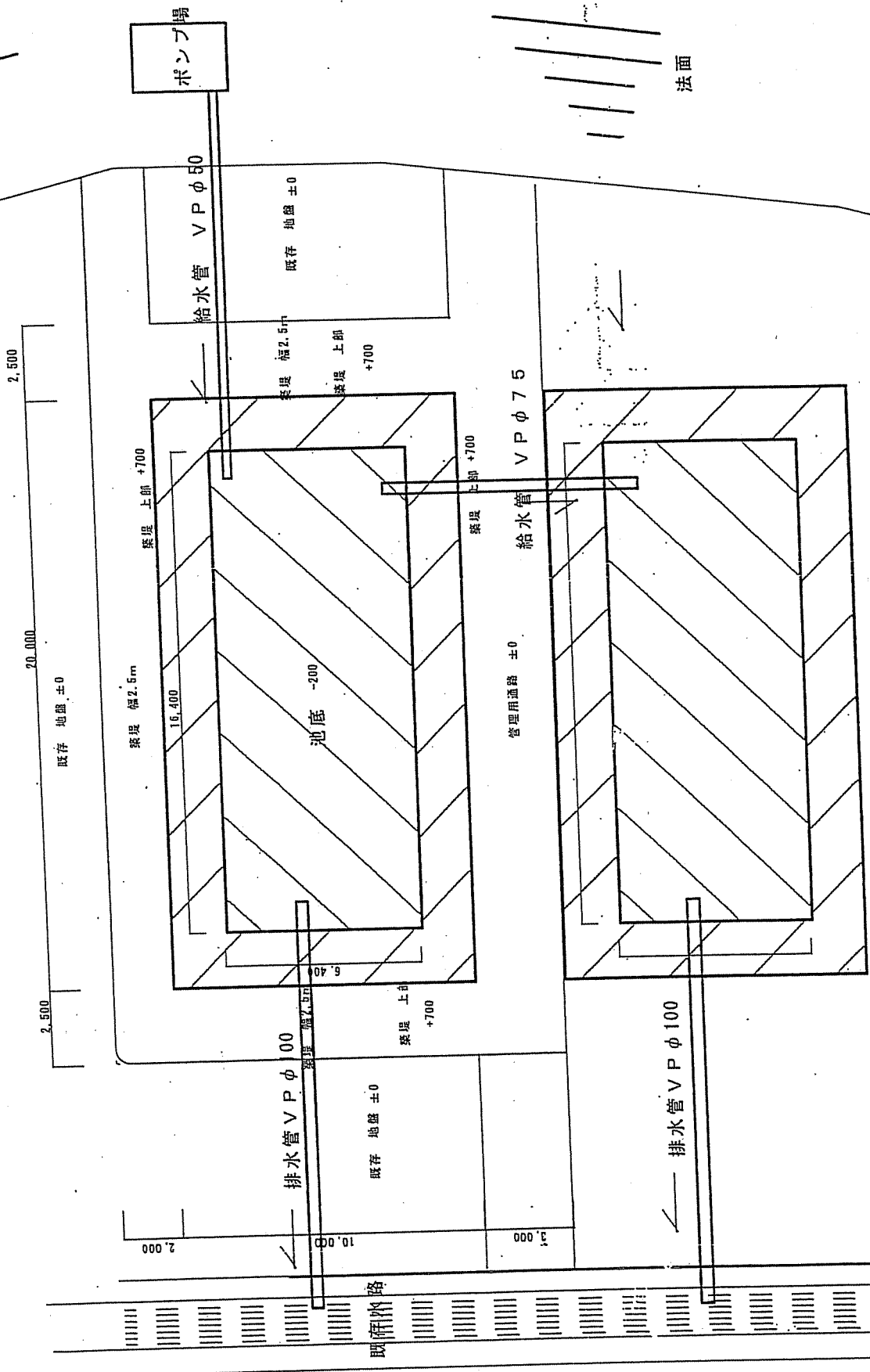
- ・ モロコの養殖とともに周辺の休耕地1000㎡に稲作づくりを行う。

5. 今後の事業展開

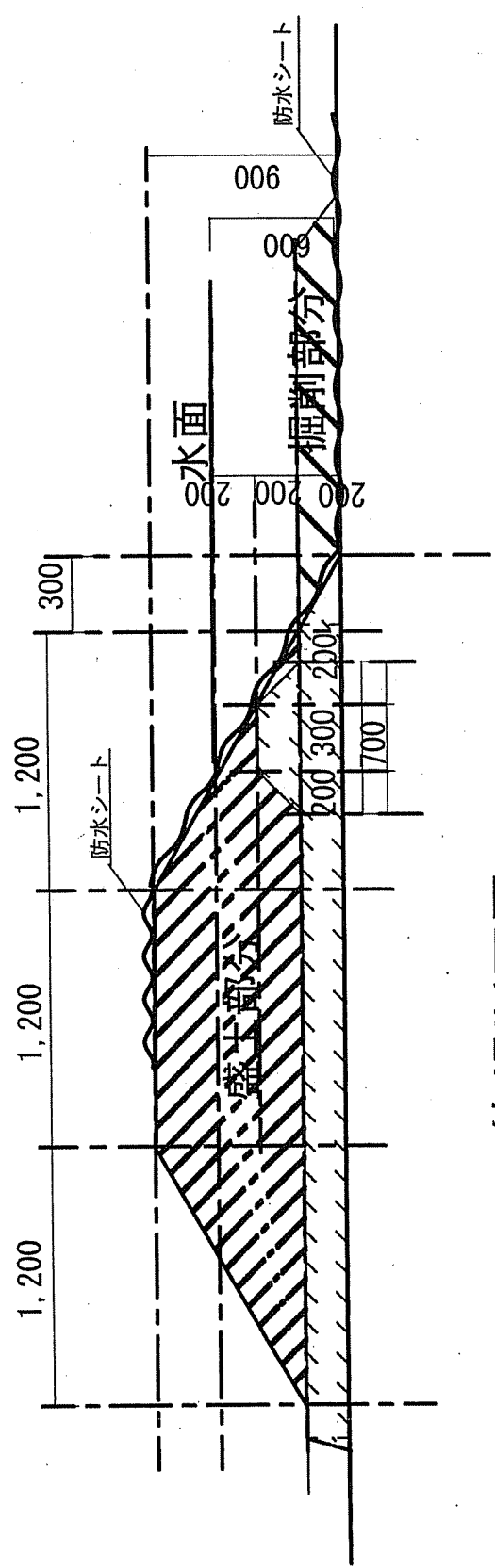
- ① 試験養殖の経過を見ながら、モロコの養殖を基盤として休耕地等の再利用を全域に展開する。
- ② 周辺の休耕地等に水田に栽培可能なマコモタケ、タンクロマメ（枝豆）、アヤメ等の水生植物を栽培し、市民及び児童生徒の体験学習農園を展開する。
- ③ シティーセールスプロジェクト事業の一つとする。



配置図 1/2500

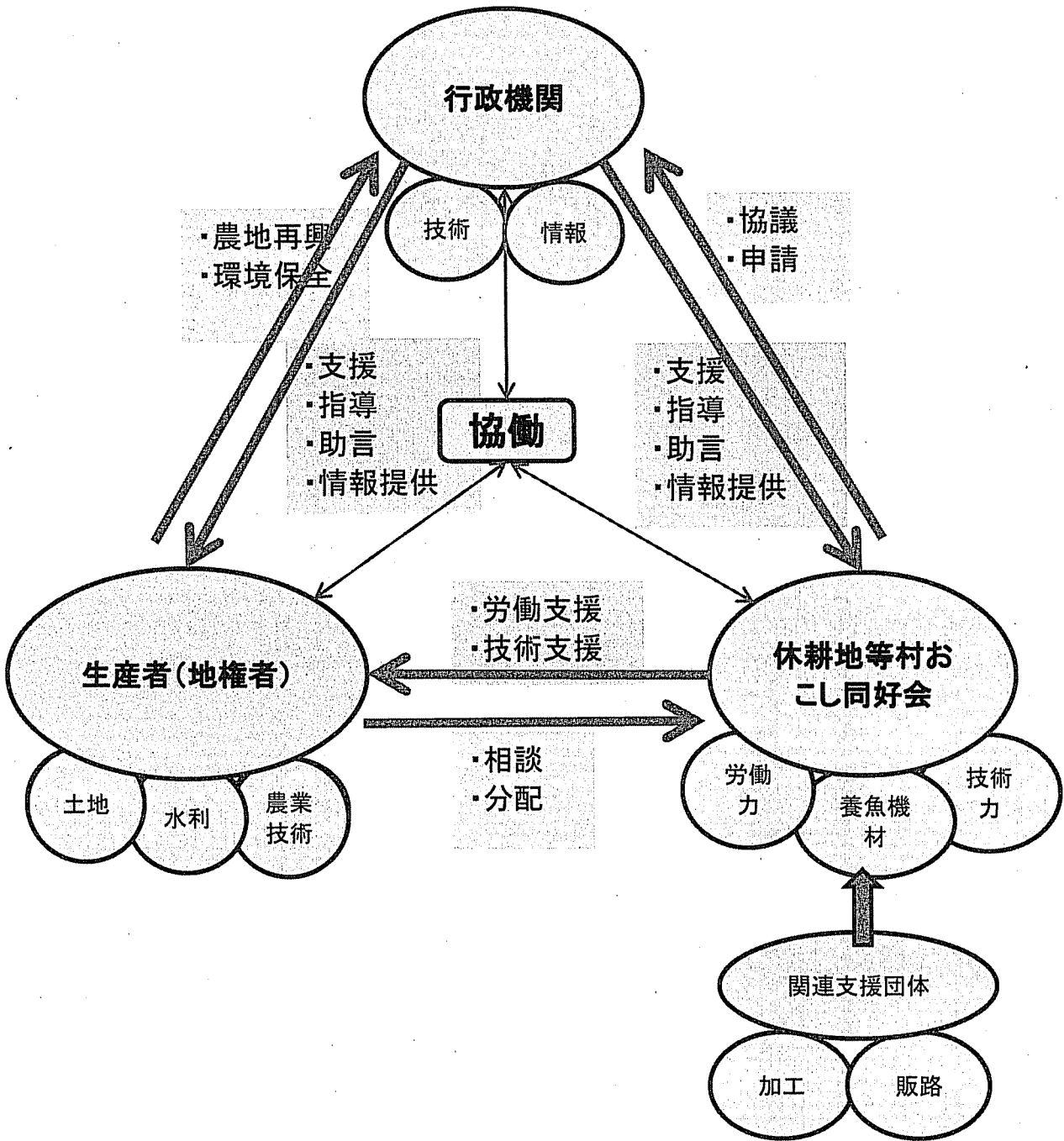


配置図 1:200



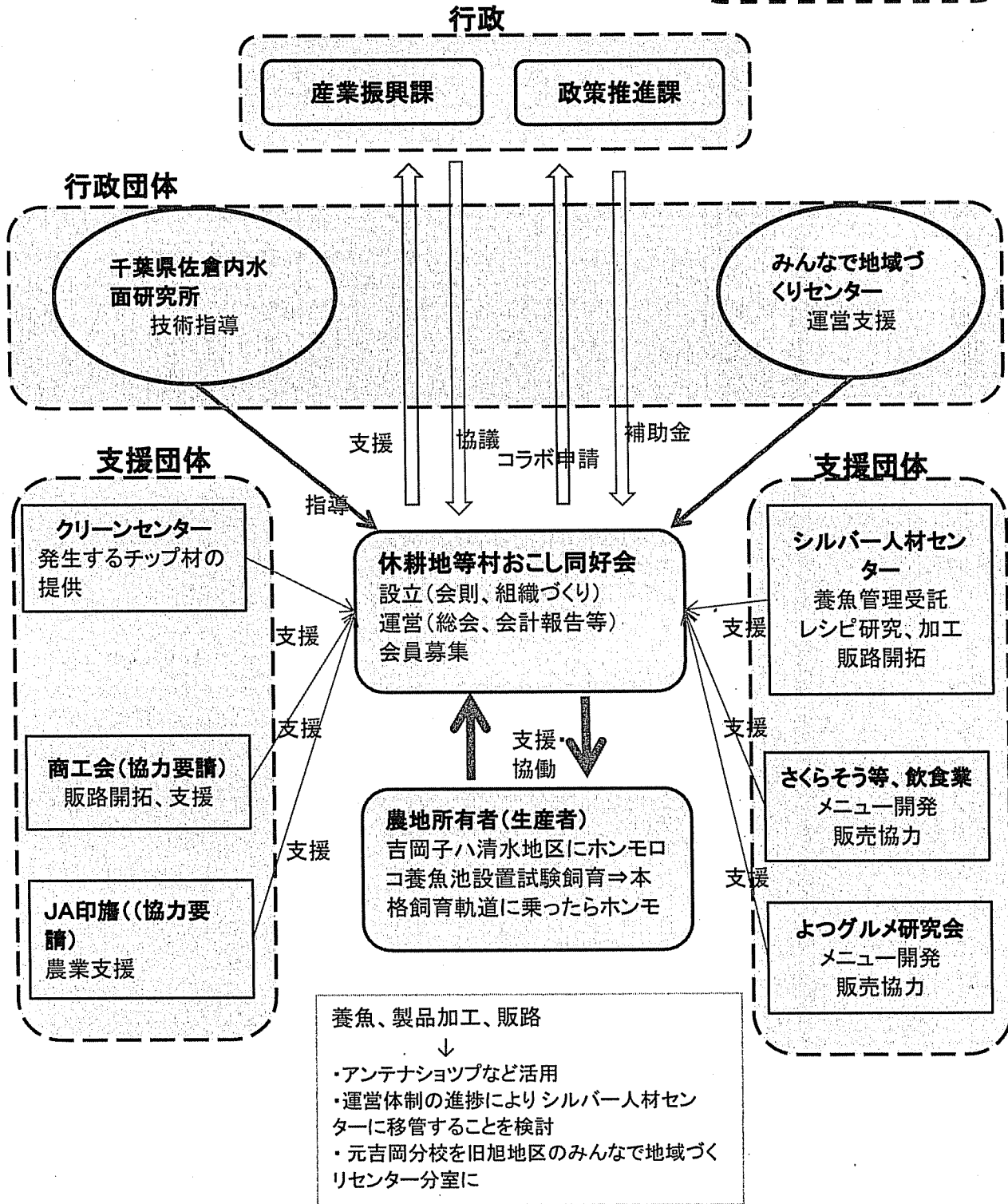
築堤断面図

コラボ事業フロー



○ホンモロコ養殖連携フロー図

- ★1、地域ブランド品の開発
 2、休耕地等の活用
 3、高齢者の地域活動の場づくりと健康づくり



提案書類

Y・Y・NOWSON

み 地
の 域
く 5
コ ラボ

平成25年11月15日

四街道市長 佐 渡 齊 様

名 称 Y・Y・NOWSON
(わいわいのうそん)

所在地

代表者 村長 岡 田 はる美

㊞

みんなで地域づくり事業提案書

四街道市みんなで地域づくり事業提案制度実施要綱第7条の規定により、次のとおり提案します。

新規 ・ 継続		
事業名	Y (よつかいどう)・Y (よしおか)・NOWSON (いまどきの農村)	
事業概要	地球にやさしい体験型農家生活のすゝめ ・YY農業体験 (ソフト事業) ・YY生活体験 (ハード整備、ソフト事業) ・YY地区探訪 (ソフト事業)	
事業分野	<input type="radio"/> 保健・医療・福祉	<input type="radio"/> 社会教育
	<input type="radio"/> まちづくり	<input type="radio"/> 観光
	<input checked="" type="radio"/> 農村等振興	<input type="radio"/> 文化・芸術・スポーツ
	<input type="radio"/> 環境	<input type="radio"/> 災害救援
	<input type="radio"/> 地域安全	<input type="radio"/> 人権擁護・平和
	<input type="radio"/> 国際協力	<input type="radio"/> 男女共同参画
	<input type="radio"/> 子どもの健全育成	<input type="radio"/> 情報化社会
	<input type="radio"/> 科学技術	<input type="radio"/> 経済活動
	<input type="radio"/> 職業能力開発・雇用機会拡充	<input type="radio"/> 消費者保護
	<input type="radio"/> 市民活動支援	<input type="radio"/> その他 ()
事業部門	<input type="radio"/> 拠点づくり部門	<input type="radio"/> 地域づくり部門
	<input type="radio"/> アンダー19部門	
事業形態	<input type="radio"/> コラボ型	<input type="radio"/> サポート型
市の担当課	産業振興課 (農業振興担当、観光担当)、政策推進課 (シティセールス担当)、健康増進課 (健康づくり担当)、社会教育課 (文化財担当)	
添付書類	(1) みんなで地域づくり事業企画書 (様式第2号) (2) みんなで地域づくり事業収支計画書 (様式第3号) (3) 提案団体概要書 (様式第4号) (4) 団体の規約、会則等の写し (5) 団体の構成員の名簿 (6) 団体の活動内容がわかるもの (パンフレット等) (7) その他 ()	

備考

- 「事業概要」は、簡潔に記載してください。
- 「事業分野」は、該当する分野に○印をつけるものとし、該当する分野が複数ある場合には、主なものに◎を付け、その他のものに○印を付けてください。
- 「事業部門」及び「事業形態」は、いずれかの部門及び形態に○印を付けてください。

みんなで地域づくり事業企画書

<p>団体名</p>	<p>Y・Y・NOWSON (わいわいのうそん)</p>
<p>事業名</p>	<p>Y (よつかいどう)・Y (よしおか)・NOWSON (いまだきの農村)</p>
<p>目的・必要性</p>	<p>1 四街道の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 四街道は都会と田舎が混在する稀有な環境です。 ② 四街道では休耕地が増えています。 ③ 古村では昔ながらの生活文化が薄らいでいます。 <p>2 事業の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 都会にいながら田舎の生活を体験する事が出来る場を創造します。 ② 休耕地の解消のモデルケースを創造します。 ③ 農村の生活と民俗の体験できる場を創造します。 <p>3 事業の必要性</p> <p>北総台地に谷津田が入り組んだ四街道の農村を復活させる事が、今後四街道市が力を注ぐ“シティセールス”につながる。</p> <p>単に休耕地の活用に留まらず、市民が農家の農作業を援助する新しい結いのシステムを活用することにより、わいわいと賑わいのある農村となる。</p> <p>わいわいと賑わいのある農村を興すためには、旧来の生活が体験できる場が必要であり、生活体験の場づくりがシンボリックな拠点として四街道市のシティセールスに拍車をかける。</p> <p>歴史民俗由来のイベント等を組み込むことにより、わいわいと賑わいのある農村の生活体験の幅が広がる。</p>
<p>内容</p>	<p>地球にやさしい体験型農家生活のすゝめ</p> <p>1 ハード整備 (YY生活体験の里づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① かまど小屋整備…吉岡49番地岡田正思宅の旧湯殿を改修し、かまど小屋にする。 ② 粉ひき小屋整備…同上宅の蔵を改修し、製粉設備を設置する。 ③ 井戸堀り…同上宅の埋められた古井戸を上総掘りでガチャポン井戸を設置する。 ④ 集会所整備…民家の改修ですが、集会所として一般開放するため公共的価値が生まれます。 <p>2 ソフト事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ① YY農業体験 通年型農業体験により、農家の農作業を支援する新しい結いのシステムを実践する。 ② YY生活体験 単発イベント型の生活体験として、野草料理・酵素ジュース・ばら

様式第2号（第7条）

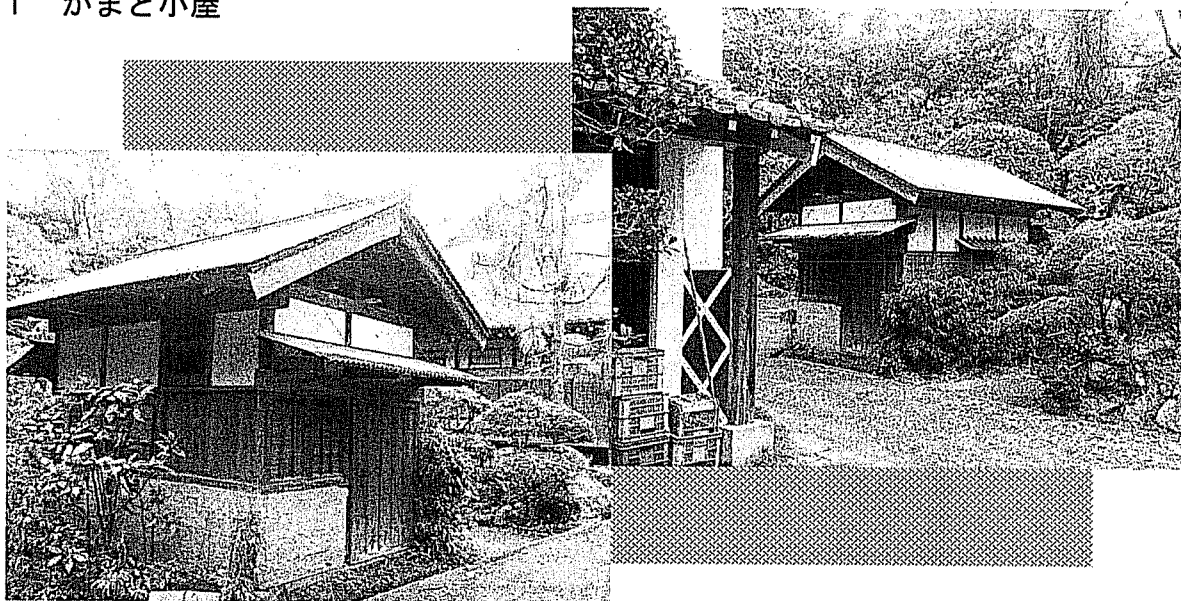
	っぱ饅頭・いも餅・しめ縄・縄ない・草履づくりなどを展開。 ③ YY地区探訪 道祖神めぐりや吉岡地区の史跡めぐりなど、歴史民俗講座を東京情報大学教授ケビン・ショート氏（民俗学）や学生と連携して実施する。 （みんなで地域づくりセンターと東京情報大において現在調整中）	
スケジュール	時期	具体的な取組
	通年	農作業体験の募集と実践
	4月	筍・野草料理教室と道祖神巡り
	5月	製粉小屋整備
	6月	
	7月	ぱらっぱ饅頭づくり
	8月	
	9月	
	10月	文化祭、井戸掘り（上総掘り）
	11月	収穫祭、炭焼き体験など
	12月	しめ縄づくり、餅つきなど
	1月	かまど小屋整備
	2月	
	3月	観桜の集い
役割分担の想定	（団体の役割） 事業の企画、実施	
	（市の役割） 事業の広報、後方支援、企画への参画	
他団体との連携	四街道自然農塾、一村のアトリエ、東京情報大学、よつグルメ研究会	
期待される成果	<ul style="list-style-type: none"> ・四街道のシティセールスにつながる。 ・当事業（民が農村を支えるワイワイの一そん）が今後の農村再生の試金石となる。 ・他市から営農移住者を誘致するきっかけづくり。 ・北総地域の歴史民俗文化の再興を図る。 	

備考

- 1 「役割分担の想定」のうち（市の役割）は、事業形態がサポート型にあつては、役割がある場合に記載してください。
- 2 「期待される効果」は、数値等を記載してください。

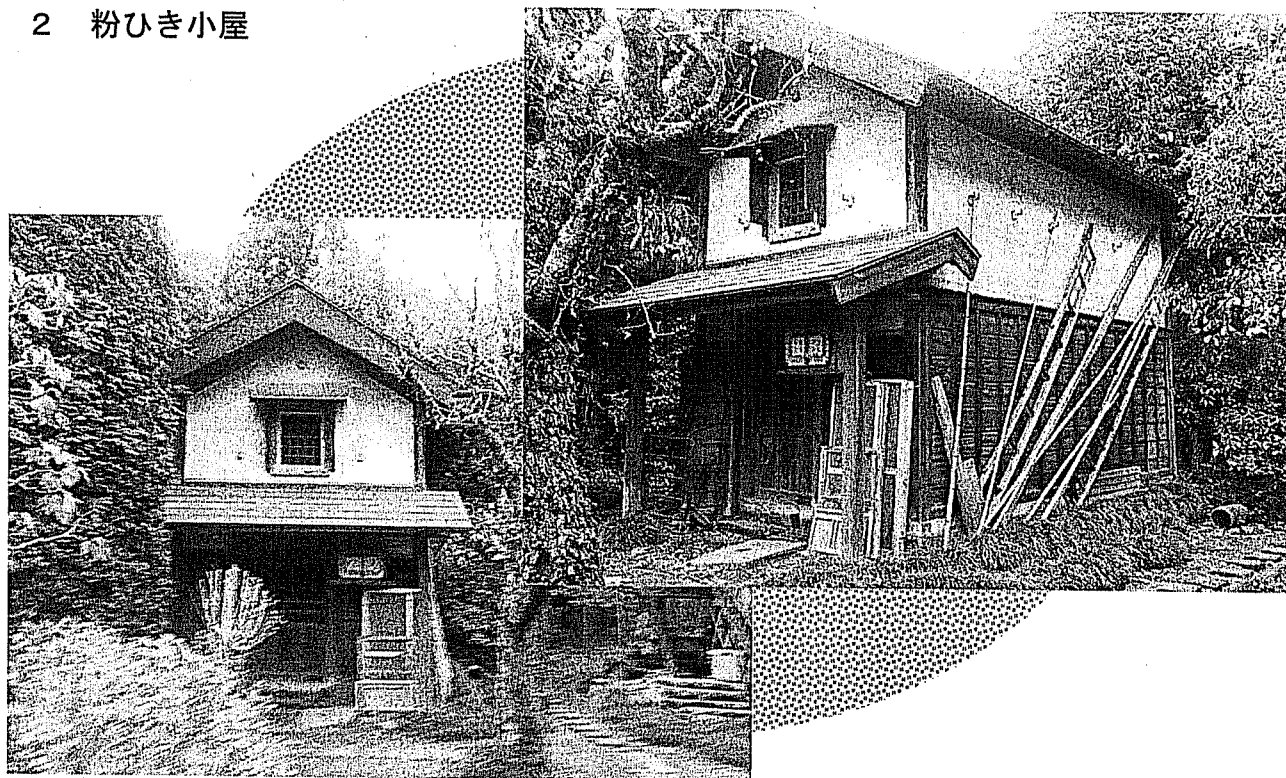
YYNOWSONのご案内

1 かまど小屋



かまど小屋に改修する旧湯殿。
農村生活体験で収穫した米、野菜類を煮炊きします。

2 粉ひき小屋



二つある蔵のひとつ
よつグルメ研究会とのコラボにより、ここが製粉場所になります。

3 井戸



かつて井戸があった湯殿脇（杭の個所）
かまど小屋の脇に井戸を掘ります

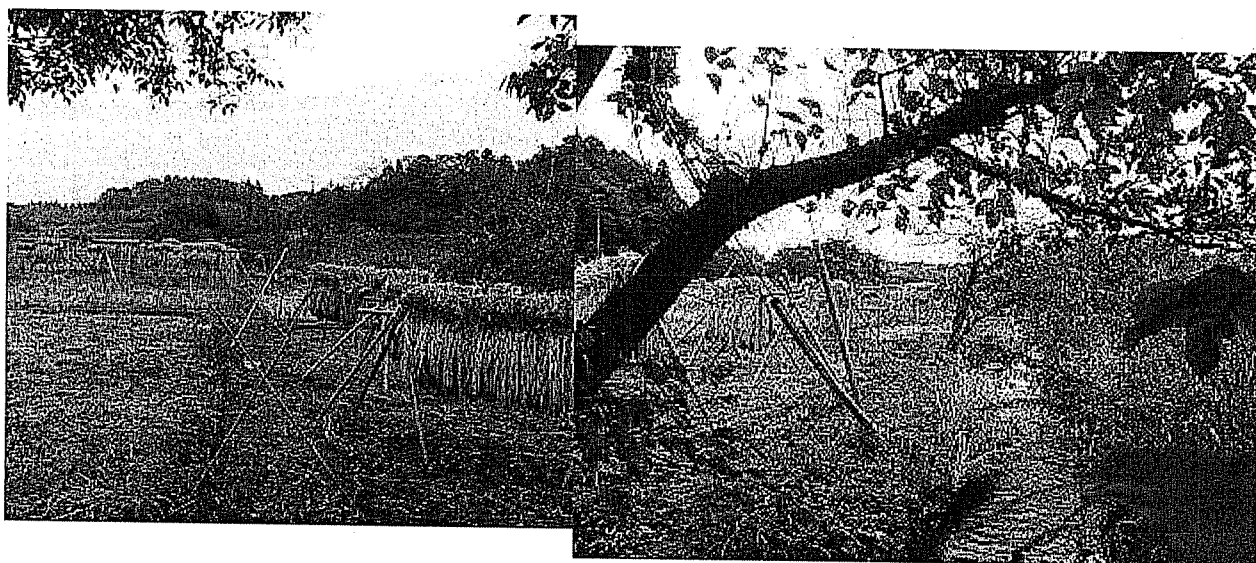
4 集会所



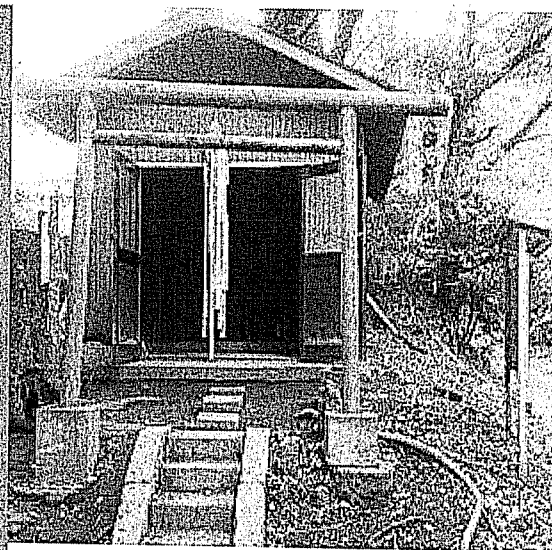
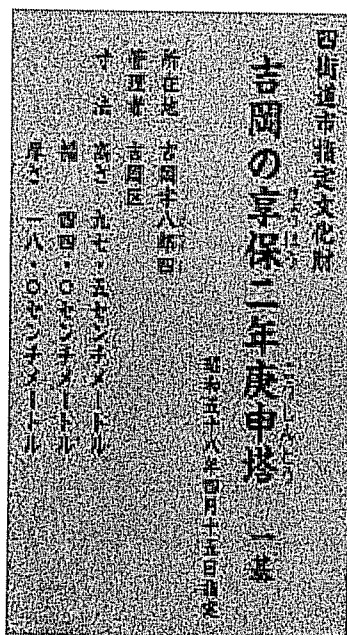
日本画家『田中一村』が創作活動をした母屋。
集会所として改修します。
農家体験・農村体験の殿堂と位置付けています。



こちらは土蔵。
今回は改修しません。



昔ながらの農法で耕作している谷津田、清らかなせせらぎ、この風景を残すなら“今でしょ！”



文化財指定されている庚申塔。
ほかにも周辺には豊富な民俗資料があります。

提案書類

四街道マップ活用交流会

平成25年11月15日

四街道市長 佐渡 斉 様

名 称 四街道マップ活用交流会

所在地

代表者 代表 笹本 雅行

㊞

みんなで地域づくり事業提案書

四街道市みんなで地域づくり事業提案制度実施要綱第7条の規定により、次のとおり提案します。

新規・継続

事業名	M A P (Map Action Project) ～マップ活用による四街道の魅力発信基地作り事業～		
事業概要	① 四街道のウォーキングマップ情報をデータベース化とWebサイトの構築、並びに四街道の魅力を発信する基地づくりを実現する。 ② 多分野に亘る市民及び市民活動団体との連携により、四街道の魅力を発見、発掘、発信することを推進し、市民の参加を呼びかけて「まちづくり」を図る。		
事業分野	<input type="radio"/>	保健・医療・福祉	社会教育
	<input checked="" type="radio"/>	まちづくり	<input type="radio"/> 観光
		農村等振興	<input type="radio"/> 文化・芸術・スポーツ
		環境	災害救援
		地域安全	人権擁護・平和
		国際協力	男女共同参画
	<input type="radio"/>	子どもの健全育成	<input type="radio"/> 情報化社会
		科学技術	経済活動
		職業能力開発・雇用機会拡充	消費者保護
	<input type="radio"/>	市民活動支援	その他 ()
事業部門		拠点づくり部門	<input type="radio"/> 地域づくり部門
		アンダー19部門	
事業形態	<input type="radio"/>	コラボ型	サポート型
市の担当課	政策推進課市民活動推進室 (みんなで地域づくりセンター) 窓口サービス課、産業振興課		
添付書類	(1) みんなで地域づくり事業企画書 (様式第2号) (2) みんなで地域づくり事業収支計画書 (様式第3号) (3) 提案団体概要書 (様式第4号) (4) 団体の規約、会則等の写し (5) 団体の会員名簿 (6) 団体の活動内容がわかるもの (パンフレット等) (7) その他 ()		

みんなで地域づくり事業企画書

団体名	四街道マップ活用交流会		
事業名	M A P (Map Action Project) ～マップ活用による四街道の魅力発信基地づくり事業～		
目的・必要性	<p>「マップ活用交流会」は平成23年11月より、四街道市内で健康・歴史・自然・福祉・社会教育・商工など多分野で発行されているマップについて再整理し情報交換しながら地域資源を生かしたまちづくりをめざしてきました。平成24年度は①マップの展示・説明会(市民ギャラリー・産業祭り)・②四街道の魅力発信コースを選定紹介。③モデルコースの紹介を中心に活動してきました。</p> <p>今後は、整理されたマップを活かした四街道の魅力散策コース情報をデータベース化し、市内外からいつでも閲覧できるようなWebサイトを構築することを目的としています。また、市内には観光案内所等の「まちの情報」を発信する拠点がないため、市内外の人達に四街道の魅力を発信する拠点づくりが必要です。その役割を果たす「発信基地づくり」を実現することにより、四街道の地域資源を活かした「まちづくり」をめざします。</p>		
内容	<p>【対象】 四街道市内外全般</p> <p>【活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発信基地づくり <ul style="list-style-type: none"> ・発信基地は、四街道で発見・発掘した情報資料をWebサイト上及びチラシ、パンフレット等をリーフレット棚に整えて市民にPRする。 ・設置場所候補は、JR四街道駅市民サービスセンター、みんなで地域づくりセンター、地域振興財団等。 ・イベントを開催時には、当会メンバーを配置し、説明・案内を実施する。 2. データベース化 散策マップおよび四街道の魅力発信コースのデータベース化とWebサイトの構築。市ホームページやデジタルサイネージとのリンク・連携を図る。 3. 魅力発信コースの紹介とサポート 四街道の魅力を発掘、発見、発信するモデルコースの作成と紹介 		
スケジュール	時期	具 体 的 な 取 組	
	<p>4月 発信基地設置の準備 (関係課) 窓口サービス課や地域振興財団と連携、意見交換等推進</p> <p>5月</p> <p>6月</p> <p>7月 設置方法検討</p> <p>8月 リーフレット棚設置</p> <p>9月 ↓ 設置場所候補</p>	<p>【発信基地づくり】</p> <p>【データベース化】</p> <p>Webサイト更新 既存のマップのデータ 13コースマップ ビューポイントの紹介、解説シート作成</p>	<p>【魅力発信コース】</p> <p>選定コース下見と資料づくり (毎月第4金曜午前)</p> <p>↓</p> <p>第1回モデルコースウォーキング実施</p>

	<p>・四街道駅市民サービス課</p> <p>10 月 ↓ 第 2 回モデルコースウォーキング実施</p> <p>・市役所ロビー棚 市の HP、デジタルサイネージへのリンク</p> <p>・みんなで地域づくりセンター</p> <p>11 月 ↓</p> <p>11 月 11 月には設置できよう準備</p> <p>12 月 第 3 回(案) JR 四街道駅開業 120 周年記念ウォーキング」実施</p> <p>1 月</p> <p>2 月 事業のまとめ、決算</p> <p>3 月</p>
<p>役割分担の想定</p>	<p>(団体の役割)</p> <p>① 市内発行のマップを配架し情報発信をする場(発信基地)の創出。 ② 既存マップおよび、魅力発信コースのデータベース化と Web 作成。 ③ 各分野で活動している市民団体のネットワーク組織として、各団体の協力を得て、コース資料の策定を行う。</p> <p>(市の役割)</p> <p>社会教育課・環境政策課・産業振興課・・・市内各分野の情報提供 情報推進課・・・デジタルサイネージへの情報掲載やリンク 秘書広報課・・・市のホームページへの情報掲載やリンク 環境政策課・・・散策ルートの検討協力 窓口サービス課・・・駅市民サービスでのマップ配架。発信基地設置にあたっての協力・折衝・支援など 政策推進課・みんなで地域づくりセンター・・・広報、発信協力 公民館・鹿放ヶ丘ふれあいセンター・・・広報、地域への発信協力</p>
<p>他団体との連携</p>	<p>四街道市文化財ボランティアの会、四街道市ウォーキング協会、歩楽人ウォーキング、ふるさと四街道の歴史学習会、四街道観光まちづくり応援団、おひさまおひさんぽの会、四街道市自然同好会等、及び地域で活動している個人。</p> <p>近隣大学(千葉大学、東京情報大学 打診中)との連携。 Web サイトのノウハウ、法的な問題等についてはウェブ発信、魅力・発掘・発信に外部専門家又は有識者の力を借りる。</p>
<p>期待される成果</p>	<p>① 四街道市になかった四街道の魅力を発信する基地づくりにより、観光や産業振興等について、市民が四街道を広く知る機会を創出できる</p> <p>② 市民が参加しやすいウォーキング(まち散歩)という親しみのある散策コースの体験によって、地域の魅力、地域資源の再確認することができ、地域づくりや「まちづくり」の関心度を高揚できる。</p>

提案書類

ままのて

みづはて 地 博
のりく 館
コ ラボ

平成25年11月15日

四街道市長 様

名称 ままのて
 所在地
 代表者 代表 駒井 奈々 ㊞

みんなで地域づくり事業提案書

四街道市みんなで地域づくり事業提案制度実施要綱第7条の規定により、次のとおり提案します。

新規・継続

事業名	子育てしながら私も主役 事業		
事業概要	①将来社会的に自立したい子育て中の母親のコミュニティづくり ②学びの場づくり ③イベント、講座の企画、運営 ④新しい働き方を考え提案する		
事業分野		保健・医療・福祉	社会教育
		まちづくり	観光
		農村等振興	文化・芸術・スポーツ
		環境	災害救援
		地域安全	人権擁護・平和
		国際協力	◎ 男女共同参画
		子どもの健全育成	情報化社会
		科学技術	○ 経済活動
		○ 職業能力開発・雇用機会拡充	消費者保護
		市民活動支援	その他（ ）
事業部門		拠点づくり部門	○ 地域づくり部門
		アンダー19部門	
事業形態		コラボ型	○ サポート型
市の担当課	政策推進課		
添付書類	(1) みんなで地域づくり事業企画書（様式第2号） (2) みんなで地域づくり事業収支計画書（様式第3号） (3) 提案団体概要書（様式第4号） (4) 団体の規約、会則等の写し (5) 団体の構成員の名簿 (6) 団体の活動内容がわかるもの（パンフレット等） (7) その他（ ）		

備考

- 「事業概要」は、簡潔に記載してください。
- 「事業分野」は、該当する分野に○印をつけるものとし、該当する分野が複数ある場合には、主なものに◎を付け、その他のものに○印を付けてください。
- 「事業部門」及び「事業形態」は、いずれかの部門及び形態に○印を付けてください。

みんなで地域づくり事業企画書

団体名	ままのて
事業名	子育てしながら私も主役 事業
目的・必要性	<p>女性は結婚・出産を機に仕事を辞める場合がある。特に子どもが小さい時は、育児にかかりきりになり、社会から隔絶感、孤立感を抱くこともある。小さいお子さんを持つ女性に話を聞くと、育児の合間の短い時間でも働きたい、子どもが大きくなってから再就労するために勉強をしたいなどの意欲を持っていることがわかる。その一方で子育てや家事を人に任せきりにするのではなく、自分自身で行っていきたいという思いも持っている。</p> <p>子育てのために社会から遠ざかっている母親たちがいざ働こうと思うとき、幼稚園・学校の行事との兼ね合い、また子どもの病気などでの対応ができないなどの理由で、パート就労も難しい。しかも、自分のライフスタイルに合った形態の仕事に出会えないというのが実情である。(就業時間や働きたい曜日など) また、仕事を再開するために勉強をしたい、資格を取りたいと思っても経済的・時間的なことでできないという問題がある。そういった母親たちであっても、少しのサポートがあれば、働くことや社会参加をしていくことが可能であると考え。</p> <p>「ままのて」は、そういった母親たちが、家庭内にとどまるのではなく、仕事や社会参加をすることを望むときに、その活動を再開するまでに必要なサポートをしていくことを目的としている。いわば社会復帰をするための「リハビリステーション」の役割を担っていく場所である。仕事をするために必要なことをなんであるかをともに考え、学びあっていく。その一方で、また住むところの近い場所で働く、自分が今まで培ってきた様々な能力を限られた時間で活かしていく働き方など、ライフスタイルの変化に応じて、どう働くことができるのか、新しい働き方を模索・提案していくことを目指している。</p>
内容	<p>○ままみーていんぐ (月1回)・・・誰でも参加できる座談会 単なるおしゃべりから一歩発展し、子育てや仕事の両立について、子どもが育ったあとの自分の在り方を踏まえ今何をすべきか、などをフランクに話す場所である。子どもを中心とした集まりではなく、子どもと一緒に参加できるが「母親」が主体となって、自分自身を振り返り、一人の人間として、今後どういった勉強がしたいのか、どのような働き方をしていきたいのか、考えを掘り下げ、何をしていくべきか見つける場所としたい。</p> <p>○ままなび (月1回)・・・会員向けの勉強会 スキルを持っている会員が会の中で教え合う勉強会。会員がともに学ぶことでスキルをシェアする。また、教える側は教えることによって自分の知識の再認識をし、今後仕事に就くうえで必要なことを再認識することができる。また、その場に出てくることで、子どもがいてもできること、出かけるためにどうすべきかを考えるきっかけづくりとしたい。</p> <p>例) パン教室のインストラクターによる手作りパンの講習会など</p>

	<p>○他市町村のママたちの団体への訪問、交流会（不定期） 他の市町村にある既存の団体に、どのように運営しているのか、成功の秘訣や問題となったことなどをヒアリングに行き、自分たちの活動に活かすヒントとする。また地域を超えて同じ目的で活動している仲間と交流する。</p> <p>○講座の主催（年1回） 市内に住む働きたい、何か活動をしたいと思っている母親が主な対象。自分のやりたいことと家庭を両立するために必要なことに視点を置き、講師を呼んで講座を開く。 例) 主婦が働くための時間術など</p> <p>○ままのてさーびす（仮）・・・ママのための人材バンク 地域で仕事をして欲しい人と仕事をしたいママのコーディネートを行う。例) 高齢者のブドウ農家での袋掛け 英会話教室のチラシを作っ て欲しい など主婦の隙間時間を利用した働き方。以前していた仕事で得たスキルや趣味を活かすことで仕事をするといった働き方の提案。働く場所が市内である、家に近くであるなど働きやすい環境を作る。また、地域の仕事を請け負うことで、地域活性化につながる、社会的役割もある新しい働き方の実践である。</p> <p>○ままのて まるしえ（年2回）・・・ハンドメイド雑貨市及びイベント ママ作家さんのハンドメイド作品の販売や、ママが主催するお教室、○ ○の体験教室や情報発信 お子さんと一緒にできるワークショップ など、親子で楽しめるイベントを開催し、「ままのて」の活動を知ってもら う機会とする。</p>	
スケジュール	時期	具体的な取組
	4月～3月	月1回 ままみーていんぐ
	4月～3月	月1回 ままなび
	5月	ままのて まるしえ開催
	11月	ままのて まるしえ開催
	2月	講座開催
役割分担の想定	<p>(団体の役割) メンバー募集、定例会の運営。 勉強会の告知、運営。イベントに必要な準備、運営。</p>	
	<p>(市の役割) スケジュール内容を市政だよりに掲載 活動の拠点の提供 (みんなで地域づくりセンター、文化センター)</p>	

様式第2号（第7条）

<p>他団体との連携</p>	<p>四街道市みんなで地域づくりセンター 地域振興財団</p>
<p>期待される成果</p>	<p>「まみーていんぐ」などに参加することで子育て中の母親たちの孤立化を防ぐことができる。そこで築かれる関係性は、幼稚園や学校といった「母親」としての側面を重要とした関係性ではなく、同じ志を持った人と人のつながりであり、視野を広げるきっかけとなる。</p> <p>また母親たちが自らのスキルや限られた時間を活かし、団体活動や就労にむけて社会とのつながりを持つことで、目的のある生活を送り充実感を得ることが可能となる。</p> <p>そのように母親が自分自身の活動を行うことで、育児、家事に対しても主体的に取り組むことができ、家庭生活が円滑円満になることも期待できる。</p> <p>今まで、能力がありながら様々な制約のために埋もれていた人材（主に専業主婦）が地域の中で起業を目指したり、地域貢献度の高い活動を行うことで、地域の活性化とそれに伴う経済的活性化へとつながるのではないかと考えている。</p>

備考

- 1 「役割分担の想定」のうち（市の役割）は、事業形態がサポート型にあっては、役割がある場合に記載してください。
- 2 「期待される効果」は、数値等を記載してください。

提案書類

四街道・科学未来からくり倶楽部

平成25年11月15日

四街道市長 様

名称 四街道・科学未来からくり倶楽部

所在地

代表者 代表 野口英一

印

みんなで地域づくり事業提案書

四街道市みんなで地域づくり事業提案制度実施要綱第7条の規定により、次のとおり提案します。

		新規・継続	
事業名	科学実験・工作教室支援事業		
事業概要	科学を通じて、小学校と地域の連携、世代間の交流の場を作る。 小学校の理科の授業を支援できる人材の確保、養成および認定。		
事業分野		保健・医療・福祉	社会教育
		まちづくり	観光
		農村等振興	文化・芸術・スポーツ
		環境	災害救援
		地域安全	人権擁護・平和
		国際協力	男女共同参画
	<input type="radio"/>	子どもの健全育成	情報化社会
	<input checked="" type="radio"/>	科学技術	経済活動
		職業能力開発・雇用機会拡充	消費者保護
		市民活動支援	その他()
事業部門		拠点づくり部門	<input type="radio"/> 地域づくり部門
		アンダー19部門	
事業形態		コラボ型	<input type="radio"/> サポート型
市の担当課	教育委員会(学務課、指導課)		
添付書類	(1) みんなで地域づくり事業企画書(様式第2号) (2) みんなで地域づくり事業収支計画書(様式第3号) (3) 提案団体概要書(様式第4号) (4) 団体の規約、会則等の写し (5) 団体の構成員の名簿 (6) 団体の活動内容がわかるもの(パンフレット等) (7) その他()		

備考

- 「事業概要」は、簡潔に記載してください。
- 「事業分野」は、該当する分野に○印をつけるものとし、該当する分野が複数ある場合には、主なものに◎を付け、その他のものに○印を付けてください。
- 「事業部門」及び「事業形態」は、いずれかの部門及び形態に○印を付けてください。

みんなで地域づくり事業企画書

団体名	四街道・科学未来からくり倶楽部	
事業名	科学実験・工作教室支援事業	
目的・必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームやインターネット等の影響でバーチャルな世界に没頭する余り、現実意識が減少傾向にある子供たちに、実生活での問題の解決能力、生活習慣を育成する。 ・子供たちに、科学の面白さを知ってもらうために驚きや発見を体験し、好奇心旺盛で創造性豊かな感性、自由な発想意欲を育てる環境を提供する活動を行う。 ・その企画、実行ができる人材を指導員、理科支援員として養成できる事業とする。 ・小学校を核として、周辺地域の連携と世代間の交流の場を提供する。 	
内容	<ol style="list-style-type: none"> ① 地域に伝わる遊び、ものづくりの体験を指導できる人材を「指導員」として募集し、放課後を有効活用した世代を超えた地域コミュニティの場を作る。 ② 理科教育の支援をできる人材を確保するため、「お茶の水女子大学・理科支援員養成プログラム」に参加し、「理科支援員」の養成および認定を受ける。 ③ 小学校において高学年を対象に、「科学実験・工作教室」を企画し、定期的かつ継続的に実施する。H26年度も、旭小学校の「科学・工作クラブ」を継続する。 	
スケジュール	時期	具体的な取組
	平成26年4月	事業の具体的な実行を開始、会員募集、学校等、関係機関との調整 旭小学校「科学・工作クラブ」新年度スタート(毎月1回開催)
	5月	小学校の理科を支援できる人材の募集(理科支援員候補) お茶の水大「理科支援員養成コース」を受講し、認定を受ける
	6月	地域の指導員(保有する技能を活かせる人材)の募集・養成 理科支援員による指導員養成講座、安全対策指導
	7～11月	詳細な指導方法、内容の検討、マニュアル作成 科学実験、工作に活用する教材、実験機器を開発、製作
	12月	次年度の実行計画、実施校の決定(旭小を含め実施校2～3校に拡大) 学校とのスケジュール調整
	平成27年3月	活動の完了、事業完了報告まとめ 次年度の活動に備えたプログラムを決定
役割分担の想定	<p>(団体の役割)</p> <p>事業・活動内容の企画、実行計画策定、実施運営、収支予算管理、実施報告 理科実験教室を支援できる人材の確保、養成 実験教材、機器の開発、調達、並びに実験、実験機器取扱いにおける安全対策徹底 民間企業、関係機関への支援、協力働きかけ</p> <p>(市の役割)</p> <p>小学校の理科学習指導要綱との整合性の確認 活動拠点(旭公民館)の確保、広報掲載等PR活動への援助 お茶の水女子大学「理科支援員養成コース」受講料および交通費の補助 教材、実験機器調達費用の補助</p>	
他団体との連携	旭小学校、旭公民館および市内各小学校、近隣教育機関(中、高、大学等) 地元自治会、商工会、民間企業等	
期待される成果	<p>将来は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国規模の創意工夫コンテスト等で競うことのできるレベルの活動を目指す。 ・市内全域に展開できる活動とし、科学を通じて幅の広いコミュニティを築く。 ・市内20%以上の小学生児童が参画できる規模拡大を目標とする。 ・理科支援員を10名程度の増強し、指導力強化を図る。 	

子供たちを取り巻く課題

- ・インターネットやゲーム機等の影響でバーチャルな世界に没頭するあまり、現実意識が減少している。
- ・社会的傾向として、工作技能の低下、理数系基礎学力の低下、勤勉さに対する意識の欠如から、青少年に「理工系離れ」、「ものづくり製造業離れ」が進行している。
- ・家庭、学校、地域のコミュニケーション不足が、大人に対する相互不信を助長し、不登校、引きこもり、さらには万引き、暴力など犯罪の要因となっている。

四街道・科学未来からくり倶楽部

- ★科学技術に興味や関心を掻き立て、身を持って体験できる環境をつくる。
- ★「地域に伝わる遊び」、「ものづくり」や「おもしろ実験」が体験できる場を設ける。
- ★「個性」や「創造」の大切さを育むことのできる機会をつくる。
- ★世代を超えた地域におけるコミュニティで、学校と地域の連携強化を目指す。
- ★学校では経験できない実社会の体験を通じて、地元再発見、地域の活性化を図る。
- ★地元企業や地場産業を身近に知る機会をつくる。

子供たちに

- ◆「ものづくりのおもしろさ」、「技術の巧みさ」、「創造の楽しさ」、「伝承の大切さ」を体験し、好奇心旺盛で創造性豊かな人材を育成する。
- ◆科学志向の考え方、原理や法則に裏付けられた考え方を養い、衝動的な行動を抑制できる冷静な判断力をもてる人材を育成する。

地域社会に

- ◆世代間のコミュニケーションから、子供たちとの相互信頼、年長者への尊敬の念を育む、明るい地域社会の形成を指向する。
- ◆地域社会や近隣企業との協力関係を築き、地元を再発見し、将来の地域活性化の足掛かりとなる活動を指向する。

平成26年度の実施事業内容

① 地域に伝わる遊び、ものづくり体験教室

小学校の放課後等を利用し、地域(実施校の学区)において“おりがみ”や“山吹鉄砲作り”など昔からの遊びを、主に小学生低学年を対象にした体験教室を随時開催する。

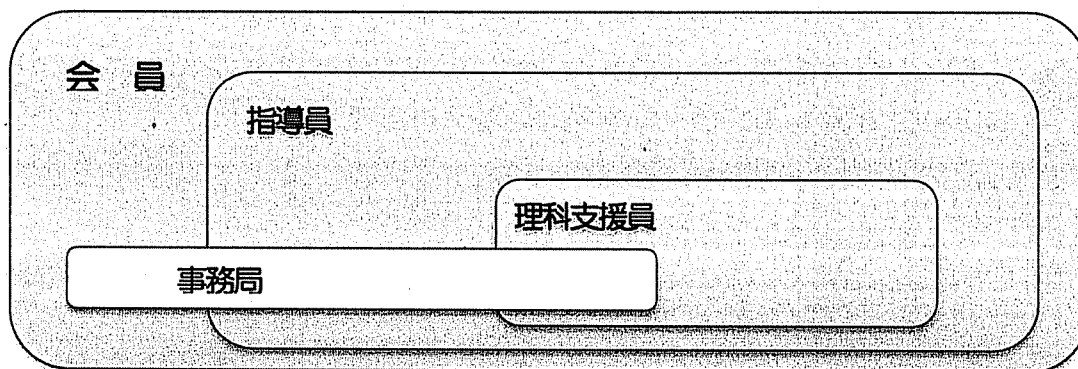
② 科学実験・工作教室

小学校のクラブ活動として、年間を通じた定期的・継続的な活動として計画し、主に高学年を対象にした理科の授業の補完となる活動で、平成24、25年度の旭小学校「科学工作クラブ」を継続する。

③ 指導員の募集、理科支援員の養成

会員から①、②の活動を実行するためのスキルを有する人材を「指導員」として確保する。
さらに、「指導員」から「お茶の水女子大学・理科支援員コース」の受講者を推選し、検定試験合格者を活動の中核となる「理科支援員」として認定する。

倶楽部の構成と運営するための要員とその役割



指導員

直接子供たちと接し、小学校の先生に協力して「地域に伝わる遊び、ものづくり体験教室」、および「科学実験・工作教室」を円滑におこない、学校と地域の連携を図る。

理科支援員

「地域に伝わる遊び、ものづくり体験教室」、「科学実験・工作教室」を企画、指導員へのアドバイス、理科の授業を支援する。

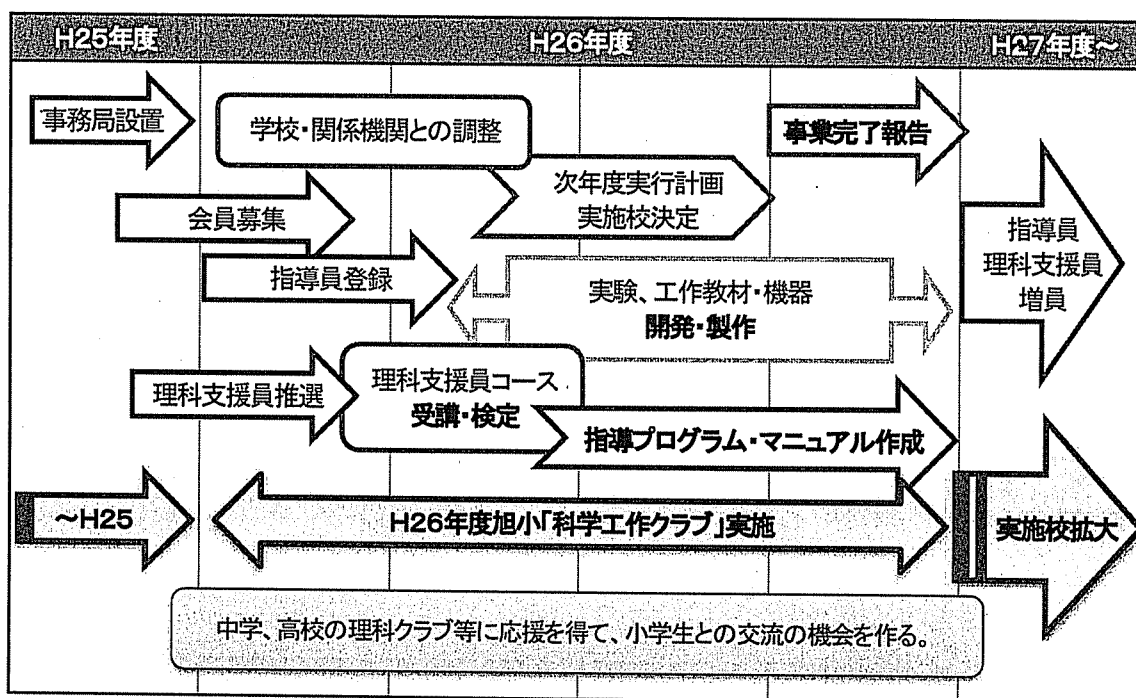
また、小学校の教育課程・学習指導要領を逸脱せず、安全面での十分な配慮ができる知識・能力を備えるため、下記の条件を満たした人材を理科支援員として認定する。

- ① お茶の水女子大学「理科支援員コース」を受講し、検定試験に合格した会員
- ② 小学校あるいは中学校、高校などの理科担当教員を経験した会員

事務局

事業計画の取りまとめ、報告、予算管理、関係機関との調整、PR活動など倶楽部の運営全般に関わり、その活動を円滑に推進する。

スケジュール



お茶の水女子大学・理科支援者養成プログラム「理科支援員コース」

《概要》

1. 学校リテラシー

教員との効果的な連携方法やそれに必要なコミュニケーション方法などを学ぶ。

2. 小学校理科実験

小学校理科の教科書に記載されているエネルギー・粒子・生命・地球等の単元について、効果的な支援方法などを学習する。

《日程》 ※各日とも、10:30 ~ 16:10 (90分×3単元)

日程	単元名	内容
1日目	【1】「学校リテラシー I」	講義: 学校教育法 児童とのコミュニケーション など
	【2】「学校リテラシー II」	講義: 科学的思考 理科室・準備室の管理方法 など
	【3】「学校リテラシー III」	講義: 学習指導案の読み取り方
2日目	【4】「生命・地球 I」 呼吸	実習: 気体検知管の安全な使用法 空気中の酸素、二酸化炭素濃度測定 呼気中の酸素、二酸化炭素濃度測定 など
	【5】「生命・地球 II-1」 顕微鏡による観察	実習: 身近な植物の教材化 学内の生物採集 など
	【6】「生命・地球 II-2」 顕微鏡による観察	実習: 観察「水の中の生き物」、「花粉」、「葉」 葉のデンプン調べ など
3日目	【7】「エネルギー・粒子 I」 安全管理: アルコールランプ	実習: アルコールランプの使用法 使用上の注意点 など
	【8】「エネルギー・粒子 II」 安全管理: 水溶液の調整	実習: 塩酸の調整 水酸化ナトリウム水溶液の調整 廃液処理の方法 など
	【9】「エネルギー・粒子 III」 電流のはたらき	講義: 電池と電磁石 実習: 手まわし発電器 など

《検定試験》 ※所要時間: 約90分

理科支援員コースを受講後、「小学校理科実験」「学校リテラシー」について筆記・実技試験があり、これに合格すると、お茶の水女子大学より『理科支援員』認定証が発行される。

《講座受講場所・費用》

講座開催場所: お茶の水女子大学 所在地: 東京都文京区大塚 2-1-1

講座受講料: ¥28,000. (3日間)

検定料: ¥15,000. (1回分)

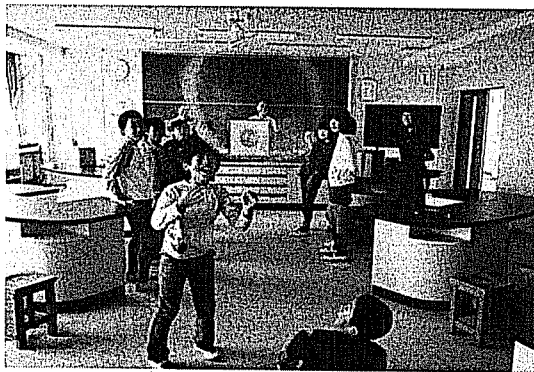
旭小学校・科学工作クラブにおける活動実績

《概要》

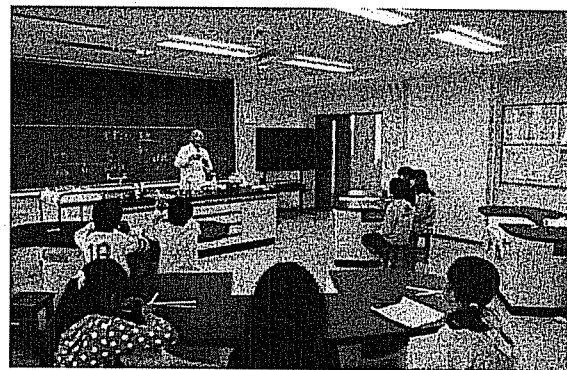
- ・毎月1～2回・1テーマ。年12回のクラブ活動を支援する。(新年度4月からスタート)
- ・理科室を活動場所として、毎回14:45～15:30に実施。(1時限=45分以内)
- ・参加児童 平成24年度10名(6年生4名、5年生4名、4年生2名)
平成25年度 6名(6年生2名、5年生3名、4年生1名)

《テーマ》 ※H25年12月以降は予定

平成24年度			平成25年度		
1 学 期	4/16	オリエンテーリング	1 学 期	4/15	オリエンテーリング
	5/14	大気圧ってなに		5/13	ピンホールカメラ
	6/11	電気のお話し		6/10	大気圧ってなに
	6/18	工作・ポンポン船		6/17	ポンポン船
	7/6	国際線のコックピット		7/8	ストローグライダー
2 学 期	10/15	空気砲を作ろう	2 学 期	9/30	空気砲で遊ぼう
	10/29	身近な化学Ⅰ		10/21	化学の実験その1)
	11/12	万華鏡の世界		11/18	鏡の原理・万華鏡の工作
	12/7	静電気で遊ぼう		12/9	化学の実験その2)
3 学 期	1/21	身近な化学Ⅱ	3 学 期	1/20	静電気の実験
	2/18	冬の植物たち		2/10	電気を起こそう
	3/1	地球と太陽 日時計		2/17	ロケットを飛ばそう
				3/7	日時計を作ろう



空気砲の実験



身近な化学の実験



静電気クラゲ



日時計の工作

提案書類

四街道駅開業 120 周年記念展開催事業実行委員会

平成 2 5 年 1 1 月 1 5 日

四街道市長 佐 渡 齊 様

名 称 四街道駅開業120周年記念展開催事業実行委員会

所在地

代表者 楠岡 巖 ㊞

事業提案書

四街道市みんなで地域づくり事業提案制度実施要綱第 7 条の規定により、次のとおり提案
します。

新規・継続

事業名	～四街道駅開業 120 周年記念展開催事業～		
事業概要	鉄道の歴史とともに歩んだ四街道市 120 年の歴史等を写真や絵を展示する。あわせて四街道市の魅力を案内する。		
事業分野	<input type="checkbox"/>	保健・医療・福祉	<input type="checkbox"/> 社会教育
	<input type="checkbox"/>	まちづくり	<input type="checkbox"/> 観光
	<input type="checkbox"/>	農村等振興	<input type="checkbox"/> 文化・芸術・スポーツ
	<input type="checkbox"/>	環境	<input type="checkbox"/> 災害救援
	<input type="checkbox"/>	地域安全	<input type="checkbox"/> 人権擁護・平和
	<input type="checkbox"/>	国際協力	<input type="checkbox"/> 男女共同参画
	<input type="checkbox"/>	子どもの健全育成	<input type="checkbox"/> 情報化社会
	<input type="checkbox"/>	科学技術	<input type="checkbox"/> 経済活動
	<input type="checkbox"/>	職業能力開発・雇用機会拡充	<input type="checkbox"/> 消費者保護
	<input type="checkbox"/>	市民活動支援	<input checked="" type="checkbox"/> その他（地域づくりに関する活動）
事業部門	<input type="checkbox"/>	拠点づくり部門	<input type="checkbox"/> 地域づくり部門
	<input type="checkbox"/>	アンダー 1 9 部門	
事業形態	<input type="checkbox"/>	コラボ型	<input type="checkbox"/> サポート型
市の担当課	政策推進課市民活動推進室（みんなで地域づくりセンター） 秘書広報課、産業振興課、社会教育課		
添付書類	(1) 事業企画書（様式第 2 号） (2) 事業収支計画書（様式第 3 号） (3) 提案団体概要書（様式第 4 号） (4) 団体の規約、会則等の写し (5) 団体の構成員の名簿 (6) 団体の活動内容がわかるもの（パンフレット等） (7) その他（ ）		

備考

- 1 「事業概要」は、簡潔に記載してください。
- 2 「事業分野」は、該当する分野に○印をつけるものとし、該当する分野が複数ある場合には、主なものに◎を付け、その他のものに○印を付けてください。
- 3 「事業部門」及び「事業形態」は、いずれかの部門及び形態に○印を付けてください。

みんなで地域づくり事業企画書

団体名	四街道駅開業 120 周年記念展開催事業実行委員会	
事業名	四街道駅開業 120 周年記念展開催事業	
目的・必要性	四街道の歴史は、道路や鉄道とともに歩み続けてきました。四街道市のイメージアップや活性化、この記念展を通じ、市・内外のたくさんの方に来訪して頂き、見ることで四街道市の良さをたくさん知っていただくことを目的とする。	
内容	<p>【対象】 四街道市内外全般</p> <p>【活動】 記念展開催（平成 26 年 12 月 9 日～23 日まで）</p> <p>会場 四街道市文化センター（展示ホール、201～203 号室利用）</p> <p>四街道市の魅力を発信</p> <p>記念展プレオープン（平成 26 年 7 月 20 日）</p> <p>継続して年 2 回鉄道模型 N ゲージ展示、写真等の展示（別紙参照）</p>	
スケジュール	時 期	具 体 的 な 取 組
	4 月	定例会（第三水曜日） 展示物検討（年時別）
	5 月	定例会 展示物検討（年時別）
	6 月	定例会 プレオープン事業準備 ① 展示物提供者からの品物搬入・保管場所・搬出方法 ② 展示会場の会場づくり及び展示方法（レイアウト含む） □展示物の掲出方法（パネル・パウチ・掲出板・額など） 掲出順序
	7 月	定例会 プレオープン事業準備 7 月 19 日（土）～21 日（月）記念展プレオープン事業 N ゲージ・写真など展示
	8 月	定例会 年次別展示物検討
	9 月	定例会 広報の範囲及び発表時期
	10 月	定例会 広報の範囲及び発表時期（開始 2 カ月前） 10. 01～07 チラシ作成（配布用資料） 10. 09 印刷
	11 月	定例会 看板及びポスター作成 10. 15～31 案内パンフレット作成 11. 01～14 展示図作成 説明資料作成（展示物のタイトル及び説明書） 11. 15 新聞・報道関係メディアに投げ込み

	<p>12 月</p> <p>1 月</p> <p>2 月</p> <p>3 月</p>	<p>11. 16～06 説明資料作成</p> <p>11. 19 定例会</p> <p>12. 06～07 Nゲージ設置準備</p> <p>12. 11～12 会場づくり</p> <p>12. 13～23 四街道駅開業 120 周年記念展開催 (開催期間 11 日間、開催時間 10 時 00 分～ 16 時 00 分まで)</p> <p>12. 24 搬出作業</p> <p>12. 25 展示品の返還作業</p> <p>関係者挨拶回り</p> <p>定例会</p> <p>記念展開催結果報告</p> <p>今後の方針</p> <p>まとめ</p>
<p>役割分担の想定</p>	<p>(団体の役割)</p> <p>四街道市の魅力の案内</p> <p>(市の役割)</p> <p>① 広報秘書課＝市内外への広報 (市政だより等)。</p> <p>② 情報推進課＝ホームページ及びデジタルサイネージ (でじなびくん) へのリンク支援。</p> <p>③ 社会教育課＝記念展開催にあたっての協力・折衝・支援・資料提供など。</p> <p>④ 産業振興課＝商工会・商店などの協力支援。駅周辺商店に写真・展示品、そして、子どもさん達が描いた歴史の面影・鉄道・バスなどの絵を展示することでスタンプラリー等の実施協力。</p> <p>場所の例として、栗山～物井～佐倉にかけての電車撮影・周辺景色の撮影や絵画、有形文化財の長屋門 (近藤邸)・西洋館 (木村邸) の絵など。</p>	
<p>他団体との連携</p>	<p>当会は、市民・市民活動団体などが連携した組織であり、更に、潜在している個人や組織にも呼びかけを図っていきます。</p> <p>まמות、マップ活用交流会、四街道観光街づくり応援団、商工会などと連携。</p>	
<p>期待される成果</p>	<p>四街道駅開業 120 周年記念展開催により、四街道市の歴史の重みを市内外みなさんに知って頂き、あわせて四街道市の魅力の案内 (マップ活用) をします。</p> <p>お客様の動員数については 1 日あたり 100 人×15 日開催＝1500 人、経済効果については来場者 1500 人の人が知人 10 人に声かけ、四街道市を P R 内 10% の 1500 人が現在及び未来を語って頂ければと期待します。</p> <p>四街道市を愛する人が沢山になれば経済は回っていきます。</p>	

備考

- 1 「役割分担の想定」のうち (市の役割) は、事業形態がサポート型にあつては、役割がある場合に記載してください。
- 2 「期待される成果」は、数値等を記載してください。

【 別 紙 】

平成 25 年 11 月
四街道駅開業 120 周年
記念展開催実行委員会

～総武本線 錦糸町・佐倉間開通～

四街道駅開業 120 周年記念展開催

明治 27 (1894) 年 12 月 9 日鉄道レールが本所 (錦糸町)・市川間開通 (市川・佐倉間は同年 7 月 20 日開通)、同時に四街道駅が開業しました。

来年、平成 26 (2014) 年 12 月 9 日で 120 年となります。これを記念して展示会を四街道市文化センターなどで開催したいと考えています。

四街道市は軍と深いかかわりの中で発展してきた町ではありますが、明治 27 年に開業した四街道駅の駅舎も市制施行された、昭和 56 年に現在の新しい橋上駅舎に生まれ変わり、駅前もさらに賑やかになってきました。戦前の軍相手の面影が一部に残っていますが、駅周辺の様相は、様変わりし活気を呈しています。

総武本線は新東京国際空港への重要路線でもあり、東京への通勤路線、ベッドタウンの位置付けにもなっています。四街道市も昭和 43 年ごろから宅地開発が行われ、「旭ヶ丘グリーンタウン」の宅地開発をはじめ、「みそらニュータウン」「千代田団地」「美しが丘・和良比」「つくし座・さちが丘」「御成台研究学園都市・鷹の台」「ベリータウンもねの里・物井」「成中台ニュータウン」など次々と開発され、現在も開発しているところです。人口も確実に増加の一途をたどっています。

通勤快速電車や普通電車も、遅延を防止する策として 3 扉を 4 つ扉に改造、座席もロングシート化され、たくさんのお客様に利用して頂けるよう工夫され今日に至っています。

四街道駅は、全快速電車は停車、特急エクスプレス朝上り 3 本、夕 3 本が停車、特急しおさい朝 1 本、夕 1 本が停車するまでに至りました。

四街道市の地名は、四街道駅から南西へ約 500m 歩くと十字路に至り、街道が四方に延びている。鉄道が敷かれる以前、原野の中に石の道標があり、そこには (北) 成田山道、(南) 千葉町道、(東) 東宇金・馬渡道、(西) 東京・船橋道が記されています。ここから四ツ街道の地名が生まれたと言われていています。

四街道と鉄道、共に歩んだ四街道市 120 年の歴史の変遷を展示したいと考えています。

- (1) 四街道駅が開業したことで、明治 19 年陸軍砲兵射的学校所在の現佐倉市下志津原(木戸場)から大土手山(四街道市文化センター付近)を射塚として、実弾演習してしまし

たが、明治 27 年四街道駅開業に伴い乗降客に危険が及ぶため、3 年後の明治 30 年、陸軍砲兵射的學校は四街道駅付近に移転しなければならなくなりました。その木戸場の遺跡碑の写真。

- (2) 戦後下志津原約 2400 畝の土地に復員軍人や海外からの引揚者などが鹿放ヶ丘・大日に食料増産のため入植、その開拓の歴史案内。
- (3) 昭和 43 年開通前の寺崎トンネル工事、最初の第一歩、掘り進む工事写真。
- (4) 蒸気機関車からディーゼルカー投入による東京通勤への短縮、そして複線電化に伴う電車化、今日の四街道駅に停車する特急電車の雄姿などの写真。
- (5) 四街道駅舎三代（木造・木造・橋上）にわたる写真。
- (6) 物井川橋梁亀崎橋台跡のレンガ造り（オランダ積み）は県内の鉄道で始めて利用されたもので、平成 19 年 3 月四街道市有形文化財に登録され、現在保存されています。その場所の案内図と写真。
- (7) 明治 30 年代の鉄道が佐倉まで記載された地図の写し。
- (8) 総武本線とは別に軍用軽便鉄道線路図の写し。
- (10) 蒸気機関車の雄姿、気動車列車、電車列車などの写真。
- (11) 沿線風景の移り変わりや蒸気機関車を孔版画で表現したものを展示。
- (12) 鉄道模型（N ゲージ）の展示、これを走らせます。など一部を記しました。

四街道の歴史は、約 28 千年前旧石器時代から、縄文・弥生時代、中世、江戸時代を経て明治に入り、鉄道とともに歩み続けてきました。四街道市の歴史的な魅力などを、この記念展を通じ、市・内外のたくさんの方に来訪、見て頂き四街道市の良さをたくさん知ってもらう事が出来れば幸いです。

この活動につきましてご理解、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

提案書類

ナイトハイクと森キャンプ実行委員会

平成25年11月15日

四街道市長 様

名称 ナイトハイクと森キャンプ実行委員会
 所在地
 代表者 代表 福島 元 (印)

みんなで地域づくり事業提案書

四街道市みんなで地域づくり事業提案制度実施要綱第7条の規定により、次のとおり提案します。

新規・継続

事業名	ナイトハイクと森キャンプ		
事業概要	四街道市内の小、中学生を対象に夏休みにキャンプを行う。子どもたちの交流を深めつつ、子ども主体でキャンプを作りあげていく。またキャンプ以外にも、事前事後のイベントを行い団体全体で親交を深め異年齢交流の場をより多く設ける。		
事業分野		保健・医療・福祉	<input checked="" type="radio"/> 社会教育
		まちづくり	観光
		農村等振興	文化・芸術・スポーツ
		環境	災害救援
		地域安全	人権擁護・平和
		国際協力	男女共同参画
	<input type="radio"/>	子どもの健全育成	情報化社会
		科学技術	経済活動
		職業能力開発・雇用機会拡充	消費者保護
		市民活動支援	その他()
事業部門		拠点づくり部門	地域づくり部門
	<input type="radio"/>	アンダー19部門	
事業形態		コラボ型	<input type="radio"/> サポート型
市の担当課	社会教育課		
添付書類	(1) みんなで地域づくり事業企画書(様式第2号) (2) みんなで地域づくり事業収支計画書(様式第3号) (3) 提案団体概要書(様式第4号) (4) 団体の規約、会則等の写し (5) 団体の構成員の名簿 (6) 団体の活動内容がわかるもの(パンフレット等) (7) その他()		

備考

- 「事業概要」は、簡潔に記載してください。
- 「事業分野」は、該当する分野に○印をつけるものとし、該当する分野が複数ある場合には、主なものに◎を付け、その他のものに○印を付けてください。
- 「事業部門」及び「事業形態」は、いずれかの部門及び形態に○印を付けてください。

みんなで地域づくり事業企画書

団体名	ナイトハイクと森キャンプ実行委員会	
事業名	ナイトハイクと森キャンプ	
目的・必要性	四街道市内のこども達に地域の枠を越えた仲間作りができる機会を設け、地域教育の場を提供するとともに、非日常体験活動を通し新しい人間関係の構築する術を学んでもらう。	
内容	四街道市内の小、中学生を対象に夏休みにキャンプを行う。キャンプの中心となる実行委員を4月に募集し、実行委員同士の交流を深めつつ、子ども主体でキャンプを作りあげていく。またキャンプ以外にも、事前事後のイベントを行い団体全体で親交を深め異年齢交流の場をより多く設ける。	
スケジュール	時期	具体的な取組
	4月	実行委員を募集、定期的に会議をし、進行を深めるとともにキャンプについてこども主体で話し合う。
	8月	四街道子ども探検隊でキャンプを行う、キャンプの前に事前交流会などの場を設ける。
	11月	キャンプで交流を深めたこども達と、事後のイベントを行う。
役割分担の想定	(団体の役割) 子ども達が主体となりキャンプを作りあげていくためのサポート、キャンプについての知識の提供、事故、アクシデントの対応。	
	(市の役割) 四街道市内の小、中学校への宣伝及び普及の協力。 また、問題点への指摘、アドバイス 市政だよりへの掲載	
他団体との連携	四街道市内の様々な団体と連携を取り安全の為、大人の見守りの協力を得て子ども達にとってよりよい体験活動になるように随時話し合っていく。プレーパークの若者と一緒に推進していく。	
期待される成果	キャンプを作りあげていく中で子ども自らが企画、推進する力を育む場となり、また地域を越えた異年齢交流の場を設けることで四街道市内の保護者の交流も生まれ、四街道の活性化に繋がるのではないかと考えます。	

備考

- 「役割分担の想定」のうち（市の役割）は、事業形態がサポート型にあっては、役割がある場合に記載してください。
- 「期待される効果」は、数値等を記載してください。